

2022年5月4日～2日

各地の憲法記念日の活動、運動・声・動き

## 憲法施行から75年 護憲派と改憲派、道内各地でそれぞれ主張

北海道新聞 05/04 08:46 更新



護憲を唱えて行進する「戦争をさせない

北海道委員会」の集会参加者ら＝3日、札幌市中央区



憲法記念日の3日、道内でも護憲、改憲を訴える人がそれぞれ集会を開いたり街中を行進したりした。ロシアのウクライナ侵攻で国防への関心が高まる中、戦争放棄と戦力不保持を定めた憲法9条を巡り問題意識を深めていた。

護憲派の「戦争をさせない北海道委員会」が札幌市中央区の大通公園で開いた集会には主催者発表で約500人が参加。ウクライナ情勢が深刻化する中、自民党などで防衛力増強論が強まっていることに対し、室蘭工業大学大学院の清末愛砂教授（憲法学）は「9条が改正されれば自衛の名の下に福祉や教育予算も削られていく」と懸念を示した。

室蘭市の「憲法を守る室蘭地域ネット」も市内で集会を開き、増岡敏三代表（78）は「75年間で1人の戦死者も出さずにいられたのは9条があったから」と強調。参加した伊達市の無職大倉幸子さん（73）は「政府は武器に頼ることなく、外交努力で危機を回避してほしい」と話していた。

一方、改憲を訴える「美しい日本の憲法をつくる道民の会」が札幌市中央区で開いた集会では、大手ホテルチェーン・アパグループ（東京）の元谷外志雄会長が講演。元谷さんは「9条があるから大丈夫という考えは日本を危うくする。自分の国は自分で守らなければいけない」と約150人（主催者発表）の聴衆に語りかけた。講演を聴いた同市南区の無職、藤本憲司さん（82）は「憲法を守る前に国民の生命や財産を守ることが大切」と話し、憲法改正の必要性を感じていた。（磯田直希、伊藤空那、伊藤駿）

## 憲法記念日 護憲派、札幌で集会 各地で主張訴え /北海道 毎日新聞 2022/5/4 地方版

憲法記念日の3日、道内各地で護憲派や改憲派が集会などを開いた。

札幌市中央区の大通公園では、護憲を主張する市民団体「戦争をさせない北海道委員会」が集会を開催。北海道平和運動フォーラムの佐藤環樹代表が「憲法は恒久平和の願いを込めて制定された。ウクライナでの戦争などを受け、非常事態や危機管理を名目に憲…

残り 115 文字 (全文 265 文字)

しんぶん赤旗 2022年5月4日(水)

## 憲法は絶対に変えさせない 次々に広がる共感 北海道



(写真) 沿道との共感が広がったパレード。

前列右端ははたやま氏＝3日、札幌市

戦争させない北海道委員会は3日、「憲法施行75周年STOP改憲！5・3憲法集会」を開き、札幌市大通公園に「変えるのは憲法ではなく政治」「憲法変えずに政治を変えよう」と集いました。

呼びかけ人の清末愛砂室蘭工業大学大学院教授らがスピーチ。日本共産党の、はたやま和也参院道選挙区予定候補・元衆院議員は「侵略戦争の痛苦の反省から二度と同じ事態を繰り返さない」と誓って制定した日本国憲法の値打ちを確認し合う日です」と強調。「憲法は壊すものではなく、守り生かすもの。安保法制（戦争法）廃止のたたかいからつながっているこの集会から、平和の道と一緒につくっていきます」と連帯あいさつしました。

「なぜ憲法を変えてはいけないのか」と集会の様子を見ていた17歳と15歳の男性は「時の権力者の解釈次第で受け止めが変わってしまうことは問題です」とこもごも話しました。

音楽に合わせてスピーカーが「憲法守れ」「ハッピーバースデー日本国憲法」とリズムカルに声を上げてパレード。「あたりまえの日常を100年先も守りたい。戦争につながる『改憲』にNOを」と書いた横断幕を先頭に、行進する参加者が手拍子でアピールすると、歩道から青年たちが次々に同じリズムで手拍子や手を振り、共感が広がりました。

## 憲法改正阻止訴え 県九条の会など青森で集会

2022/5/4 06:45 (JST)デーリー東北



集会で改憲阻止を訴える参加者ら＝

3日、青森市

青森県九条の会や憲法を守る青森県民の会など10団体と立憲民主、共産、社民の各党は憲法記念日の3日、青森駅前公園で合同で集会を開き、参加者が憲法9条の堅持を中心とした憲法改正の阻止を訴えた。

集会には各団体のメンバーら約210人が出席。県九条の会の金澤茂共同代表が「9条があるからこそ長年、日本の平和は守られてきた。9条を守り抜くために、みんなで頑張ろう」と呼びかけた。

各団体代表者があいさつしたほか、社民県連の今村修代表や共産党の高橋千鶴子衆院議員もマイクを握った。立民県連代表の田名部匡代参院議員はメッセージを寄せた。

9条は「国連憲章に通じる」 秋田市で憲法考える集会  
朝日新聞デジタル井上怜 2022年5月4日 11時00分

憲法記念日の3日、秋田市で「平和憲法をまもる県民集会」が開かれ、オンラインも含め約180人が参加した。憲法に詳しい杉井静子弁護士が講演。ロシアによるウクライナ侵攻に触れ、「憲法9条は、武力による威嚇や武力の行使を禁じた国連憲章と同じ思想の画期的なもので、今こそ再確認すべきだ」と述べた。

杉井弁護士は「(日本の)憲法は全世界の国民の平和的生存権を定め、力による支配の排除を前提にしている」と強調。さらに、憲法は14条で性別による差別を禁じ、24条で両性の平等を定めている点について、「男女平等と個人の尊重を強くうたっている」と意義を訴えた。

集会ではウクライナ侵攻について、「国際法と国連憲章に違反するもので、断じて許されない」「恒久平和の精神を全世界の人と共有し、平和を実現する」とするアピールを採択した。(井上怜)

### 平和憲法持つ国増やそう ウクライナ侵攻受け 盛岡で憲法集会

朝日新聞デジタル奈良美里 2022年5月4日 10時30分

憲法について考える集会が3日、盛岡市の岩手教育会館で開かれた。国際ジャーナリストの伊藤千尋さん(72)が「平和・人権・正義の政治を市民の手で〜今こそ憲法9条!」と題して講演。約220人が会場に集まった。

伊藤さんはロシアによるウクライナ侵攻について、以前訪れたオデーサなどの写真を示しながら解説。「ウクライナは破壊され、最初の1カ月で1千人を超える民間人の死者が出た」と厳しく批判した。

そのうえで、「軍隊で『国を守る』という考えでは、国境の向こうは敵だという発想になる」と指摘。「憲法9条のような平和憲法を持つ国を増やすことが平和への道だ」と訴えた。

集会後、参加者たちは「NO WAR」や「憲法9条を守ろう」と書かれたプラカードを手に市内を行進したが、「憲法改正」を求めるデモと鉢合わせる場面もあった。(奈良美里)

しんぶん赤旗 2022年5月4日(水)

### 憲法は絶対に変えさせない 国民の自由を守る 宮城



(写真) 街頭で行進しアピールする人たちは3日、仙台市

「5・3憲法を活(い)かす宮城県民集会」が3日に仙台市で開かれ、立憲デモクラシーの会呼びかけ人の一人で東京大学教授の石川健治氏が記念講演しました。

主催は、みやぎ9条懇話会、宮城憲法会議、憲法をまもる市民委員会、宮城県護憲平和センターの4団体。450人が参加し、講演後に新緑の街なかを行進し、「ロシアの軍事侵攻 日本政府の軍拡政策に抗議する」と書かれた横断幕でアピールしました。

石川氏は講演で、国民の自由、「私的領域」を守る核として憲法13条(個人の尊重)を挙げ、「全体(国家)のための命とし

て戦争に動員されたが、戦後は個人のものとして生命、自由、幸福を取り返した」と指摘。戦争放棄、戦力不保持、交戦権否認を掲げる9条が、徹底して軍国主義を切り離すとともに、国民の自由を守るものになっていると強調しました。

自民党が狙う自衛隊明記の9条改憲案について「9条のメカニズムを壊し、それに代わる仕組みを用意していない。自由のシステムを破壊するだけに終わる」と批判しました。

9条改憲反対署名を広げている利府町の女性(67)は「9条改憲は戦争への道で、国民の自由が奪われることだと友人に語っていきたい」と話しました。

### 憲法記念日、福島市内で弁護士が改憲をめぐる講演

朝日新聞デジタル滝口信之 2022年5月4日 11時00分



憲法について講演する森孝博弁護士=2022年5

月3日午後1時40分、福島市春日町、滝口信之撮影

憲法施行から75年となる3日、福島市内で「憲法を考えるつどい」があり、人権問題に詳しい森孝博弁護士が改憲をテーマに講演した。会場に集った市民約70人が耳を傾け、オンラインでの視聴もあった。

福島県九条の会や弁護士団体などの主催で、今年で42回目。人権擁護を訴える弁護士グループ・自由法曹団の森弁護士は「改憲問題と私たちの未来を考える—憲法の危機を乗り越えるために—」と題して講演し、憲法9条改憲の動きについて「改憲派は自衛隊を憲法に明記しても何も変わらないと言うが、まやかしだ」と主張し、「憲法で自衛隊を認めると、軍事のために人権を制限することの根拠につながる」と訴えた。

改憲を巡っては、新型コロナウイルスの感染拡大やロシアのウクライナ侵攻を受けて、国家の危機に際して政府に権限を集中させる緊急事態条項を盛り込むべきだという声の一部の国会議員からあがる。森弁護士は「権限を集中すると、権力者に乱用される可能性がある」とし、ドイツのワイマール憲法の大統領緊急令などがヒトラーに独裁を許し、弾圧手段として用いられたと指摘。緊急事態条項について否定的な考えを示した。(滝口信之)

### 施行から75年の憲法記念日 水戸で集会と行進「平和憲法守ろう」

朝日新聞デジタル藤田大道 2022年5月4日 10時30分



集会を終えて水戸市中心部を行進する参加者ら=2022年5月3日午後3時39分、水戸市南町3丁目、藤田大道撮影



1947年に日本国憲法が施行されてから、3日で75年がたった。憲法記念日の同日、茨城県内をはじめ全国各地で、今の憲法を守ろうと考える人や改めようとする人が、それぞれ集会を開き、意見を訴えた。

憲法をめぐるのは、新型コロナウイルス禍をきっかけに、大規模災害など国家の危機時に政府に権限を集中させる「緊急事態条項」を盛りこむよう改正すべきだとする声がある。安倍晋三政権下で「自衛隊明記」などの改憲4項目をまとめた自民党のほか、昨秋の衆院選で議席を増やした日本維新の会や国民民主党も改憲の議論に前向きな姿勢を示している。

水戸市では3日、県平和フォーラムと茨城平和擁護県民会議が「憲法擁護市民のつどい」を開いた。約150人が参加し、弁護士の福田護・神奈川平和運動センター代表が、近年のこうした改憲派の動きを解説。福田さんはロシアによるウクライナへの軍事侵攻にも触れ、「戦争は絶対悪。平和のために、今こそ（日本の）平和憲法を世界に訴えなければならぬ」と述べた。つどいの後には、参加者らが「平和憲法を守ろう」などと声を上げながら、市内を行進した。（藤田大道）

### 「憲法擁護のつどい」に150人 安全保障や改憲で講演 水戸／茨城

毎日新聞 2022/5/4 地方版

憲法記念日の3日、水戸市五軒町1のみと文化交流プラザで「憲法擁護市民のつどい」（茨城平和擁護県民会議主催）が開かれ、約150人が参加した。

集会では、神奈川平和運動センター議長の福田護弁護士が、日本の安全保障や改憲の動きについて講演。ロシアによるウクライナ侵攻に触れ、「今こそ平和憲法を世界に訴えな…残り95文字（全文245文字）」

### 9条生かし平和外交を 憲法施行75年 茨城・つくばでフェス 茨城新聞 2022年5月4日(水)



「戦争反対」「9条を世界に」と書いた

カードを掲げる憲法フェスティバルの参加者=つくば市竹園護憲の立場から憲法を考える「憲法フェスティバル」（実行委員会主催）が3日、茨城県つくば市竹園2丁目のつくば国際会議場で開かれた。実行委の田村武夫代表は、自民党が提言した防衛上の反撃能力保持を「自衛の名で相手国を攻撃するもの」と批判。集会ではウクライナ侵略を続けるロシアに即時撤退を求めるとともに、憲法9条を生かした平和外交を盛り込んだアピールを採択した。

記念講演では、日本学術会議の会員任命を拒否された岡田正則早大教授が登場。任命拒否は「学問の自由」を保障する憲法23条や日本学術会議法に違反すると指摘した上で、「国家は独立する学術界に協力しろと介入している。社会の枠に学術をはめるのは非常に危険だ」と強調した。

ウクライナ民族楽器バンドウラの演奏家、カテリーナさんは、祖国から避難した母マリヤさんの独唱を含めて計5曲を披露。

「ウクライナの古い曲は、今の私にとって（心の）叫び。世界中に戦争がなくなることを願っている」と訴えた。

会場には約400人が来場。取手市、松浦圭子さん(54)は「9条を持ち、被爆国である日本だからこそ、平和外交に徹する精神を世界に伝えていかねばならない」と話した。

しんぶん赤旗 2022年5月4日(水)

### 憲法は絶対に変えさせない 理想実現の政治へ 神奈川



（写真）「9条守れ！」のプラカードを

掲げる参加者=3日、横浜市神奈川区

横浜市神奈川区で3日、30回目となる「5・3県民のつどい」（神奈川憲法会議主催）とデモが行われ、270人が参加しました。

森卓爾弁護士の主催者あいさつに続き、参加者全員で「戦争NO!」「9条守れ」のプラカードを掲げました。

富田宏治関西学院大学教授が「維新政治のねらうもの 憲法と地方自治の観点から」と題して講演。維新の会の政治の本質は、貧困と格差を「市民の分断」に転化して固定化し、民主主義、くらし・いのち・教育、市民コミュニティー、平和憲法・非核三原則を破壊することにあると指摘。維新の会は「9条改憲の先兵」で「民主主義の敵」だと批判したうえで、「維新がモンスターとなる前に芽を摘むことが重要だ」と強調しました。

日本共産党の、あさか由香参院神奈川選挙区予定候補が「自公政治のもとで基本的人権も守られていない世の中になっている。この現実に合わせて憲法を変えてしまえばめっちゃくちゃになる。憲法の掲げる理想を実現するために努力するのが政治の責任。一緒に憲法を守り生かす政治へと変えていきましょう」と呼びかけました。

### 「人に寄り添う政治を」 憲法記念日に県民のつどい

東京新聞 2022年5月4日 07時23分



「9条守れ！」と書かれたプラカードを

掲げる参加者=横浜市神奈川区で

憲法記念日の三日、県内の法曹団体や労働組合などでつくる「憲法改悪阻止神奈川県連絡会議」が、憲法を考える「5・3県民のつどい」を横浜市神奈川区の神奈川公会堂で開いた。日本政治思想史を専門とする関西学院大法学部の富田宏治教授が憲法の観点を交えて国内外の政治状況について講演し、市民ら約三百人が聞き入った。

富田教授は世界的に貧困と格差が広がる中、特定の政党や政治

家の言動、手法によってさらに人々の分断が深まっていると指摘。現状を変えるために「政治に関心を持つ余裕さえ奪われた貧しい人に寄り添うことが必要」と述べた。

新型コロナウイルスを巡る施策にも言及し、百万人当たりの死者数が大阪府は全国の二・四倍だとのデータ（今年三月二十四日現在）を示し、府立病院の予算を大幅に削減するなどした結果と説明した。（石原真樹）

## 平和のあり方考える、憲法記念日 改憲・護憲両派が集会／群馬 読売新聞 2022/05/04 05:00

憲法記念日の3日、県内でも憲法について考える集会が開かれた。ロシアによるウクライナ侵攻で安全保障への関心が高まる中、憲法改正に賛成、反対の立場をとるグループがそれぞれの集会で主張を訴えた。

前橋市で行われた「群馬憲法フォーラム」には、自民党の参院議員や県議らが出席。出席者は「（軍事侵攻などの）緊急事態に対処できるようにするのが国会の仕事だ」、「平和のためにも憲法改正は必須だ」などと主張した。会場内では、東京都内で開かれた「公開憲法フォーラム」が中継され、出席者は安全保障や防災などの課題について理解を深めていた。

一方、高崎市内で行われた「憲法記念日集会」には、日本弁護士連合会の伊藤真・憲法問題対策本部副本部長らが参加。伊藤副本部長は、「戦争は残酷で何も解決しない。自衛隊を憲法に明記すると、戦争のリスクを高めてしまう」と主張。「軍事力ではなく、誇りである9条を生かした国際貢献をしていくべきだ」と強調した。この模様はオンラインでも配信された。

## ウクライナ侵攻で危機感 「9条守れ」 横浜駅前で市民訴え 神奈川新聞 2022年5月3日(火) 19:30



「9条守れ」横浜で市民100人

訴え／街頭で憲法9条の堅持を訴える市民＝3日午前、横浜駅前

憲法改正の阻止を呼びかける街頭活動が3日、横浜駅前で行われた。集まった約100人の市民は、ロシアによるウクライナ侵攻を口実に改憲を推進しようとする動きに危機感をあらわにし、戦争放棄を定める9条堅持を訴えた。

市民団体「九条かながわの会」が主催。マイクを握った同会事務局代表の岡田尚弁護士は「ロシアのウクライナ侵攻を受けて結局、憲法9条では国を守れない、9条を変えて核を共有すべきだと言っている人もいる。では核を持ったり、敵基地攻撃能力を持ったりすることで私たちのまちが守れるのか」と指摘。「戦争への不安に負けてはいけない。どうすれば地球全体が本当に平和で暮らせるか、皆さんで考えましょう」と呼びかけた。

集まった市民は「戦争しないと決めた憲法9条が希望」「9条を守ろう」などと書かれた横断幕を掲げながら、平和への願いを込めて「翼をください」を合唱した。

訴えを聞いた大学1年の志村優さん（21）＝横浜市＝は「ウ

クライナ情勢で証明されたのは憲法9条が間違っていることではなく、軍事に頼るのが間違っているということだ。私たちはもっと9条を生かさなければならぬし、若い世代も引き継がないといけない」と話していた。

街頭活動では、憲法改正に反対する署名活動も実施。集めた署名は首相や衆参議長宛に提出するという。（川口 肇）

## 護憲、世界激変の今こそ 県内各地で訴える 憲法施行75年 信濃毎日新聞 2022/05/04 09:02



手作りのプラカードやのぼり旗

で行き交う車にアピールする人たち＝3日午前11時32分、佐久市岩村田

憲法施行から75年を迎えた3日、県内各地で護憲団体や平和団体が講演会や街頭活動をした。ロシアのウクライナ侵攻が2カ月を超え、人道危機が深刻さを増す中で憲法記念日。参加者らは戦争を起したロシアの行為に憤りつつ、日本国内で防衛力強化や憲法9条改正を求める動きが強まっていることを懸念。「今こそ憲法を守らなければならない」と訴えた。

「戦争という選択肢を持つてはいけない。憲法改正が本当に必要か、ウクライナ侵攻に流されていないかしっかり見極めてほしい」。「本気でとめる戦争！ 中信市民連合」が3日、松本市で開いた集会。元陸上自衛隊レンジャー隊員の井筒高雄さん（52）＝東京都＝はこう強調し、「日本は独自外交で停戦に持って行ってほしい」と訴えた。

参加者約100人は「9条改憲許さない」などと書いたプラカードを掲げて松本駅近くを行進。同市の予備校講師森宏徳さん（56）は「戦争になれば若者が動員されるかもしれない」と護憲への思いを強くした。

長野市では「守ろう平和憲法信州ネットワーク（信州護憲ネット）」が憲法講座を開き、約70人が参加。旧ソ連（現ウクライナ）のチェルノブイリ原発事故の被災者支援を続ける「チェルノブイリ救援・中部」の原富男副理事長（69）＝上伊那郡南箕輪村＝は講演で「ロシアの侵攻で30年以上続けた支援活動が破壊され、旧ソ連時代からのウクライナ、ロシア、ベラルーシの人々のつながりを引き裂いた」と怒りをあらわにした。

同市の会社員熊谷茂さん（39）は「平和のために軍備を増強するべきだ」という議論が広まっているように思えるが、憲法前文の精神を生かす国であってほしい」と願った。

伊那市の県伊那文化会館では弁護士の椋（はんどう）大樹さん（46）＝広島市＝が講演。国家権力をライオン、憲法をおりに例え、権力を乱用させないよう「一人一人が自分のこととして考えるのが国民主権だ」と説いた。同市高遠町の田中亜璃沙さん（32）と聞いた長女の恵璃沙（えりさ）さん（9）は「（政府は）おりの中でできることをやってほしい」。

佐久市岩村田では「花さく9条の会」と「ピースアクション佐久」の呼びかけで約30人が街頭に立ち、ロシアのウクライナ侵

攻と憲法改正への反対をアピール。「NO WAR（戦争反対）」と書いたプラカードを手に個人で参加した高校1年小林虎聖(とらきよ)さん(15)＝佐久市＝は「戦争をしないと書いてある憲法は貴重だ」と話した。

### 「戦争は当たり前じゃない！」 憲法講座で戦争がもたらす悲惨な現状訴える 長野市

信越放送 2022年5月3日(火) 18:19

長野市では「市民の憲法講座」が開かれ、ロシア軍の侵攻が続くウクライナの支援に携わる男性が、戦争がもたらす悲惨な現状を訴えました。

「私たちの友人も非常に苦しい状態にある」

講演したのは、旧ソ連時代に起きたチェルノブイリ原発事故の被災者支援を行う NPO 法人で副理事長を務める原富男さんです。

「(ウクライナに) 行く度に事務所で打ち合わせをしていたがその事務所も破壊されました」

原さんは NPO の本部から伝えられる凄惨な日常や、ロシア軍の原発への侵攻に胸を痛めながら、支援金や粉ミルクを現地に送るなど支援に奔走しています。

きょうは憲法記念日。

原さんは、日本でも防衛費の増額をめぐる議論が起きている現状に危機感を示しました。

「日本の軍備をもっと増やそうとか敵基地を攻撃する能力をつくろうとか、戦争って当たり前のことなんだよとみんなの気持ちに植えこんでいく、ちゃんと反対しなければいけない」

### 憲法記念日に集会 松本で市民団体

中日新聞 2022年5月4日 05時05分(5月4日 13時25分更新)



横断幕を掲げてデモ行進する参加者

＝松本市中央で

憲法記念日の三日、市民団体「本気でとめる戦争！ 中信市民連合」が、憲法について考える集会を松本市の花時計公園で開いた。...

### 「これでいいのか日本」手作り紙芝居で憲法を考える、若い人が憲法を語り合うきっかけに 長野・飯田市

信越放送 2022年5月3日(火) 17:51

憲法改正問題の議論の中心はやはり、9条です。

これは飯田市のある男性が手作りした紙芝居です。特別にお借りしてきました。

ロシアによるウクライナ侵攻が現実になっている今、男性の胸にこみあげてくるのは「これでいいのか日本」という思いです。憲法について考えます。

飯田市の清水豊(しみずゆたか)さん。

憲法記念日にあわせ市内で開かれた集会で、自身がつくった紙芝

居の一部を紹介しました。

「紙芝居はじまりはじまり～きょうの紙芝居はこれでいいのか日本」

「じいじどうしたの? さっきから新聞見ながらうーんってうなっているけどあのな日本の政府はいまの日本の憲法を改正して戦争ができるようにしたいというんだ」

清水さんが趣味で制作している紙芝居。

憲法を身近に感じ、考える機会にしてもらいたいと、お茶の間などで孫や知り合いに披露しています。

「『戦争はやりません』と言っている憲法は世界でも少ないだから平和憲法とも呼ばれている日本の宝、世界の宝だ」

「時代は変わったいまの憲法では国は守れん敵が攻めてきたら反撃もできない憲法だといって改正しようとしている」

似顔絵が得意で、6年ほど前から地元の歴史などを題材に紙芝居をつくってきた清水さん。

安倍政権の、いわゆる「森友・加計問題」などをきっかけに、政治を風刺する作品を手掛けるようになったといいます。

「戦争とかいわゆる独裁者の体制ができる前にやっぱりみんなの力で平和や民主主義というものを守っていく」

清水さんは、連日報じられるロシアによるウクライナ侵攻のニュースに心を痛めながら、プーチン大統領のように戦争に向かおうとする権力者の暴走を止めるのが憲法の役割だと感じています。

清水さんは今後も紙芝居を通して、若い人たちが憲法について語り合うきっかけをつくっていきたいと考えています。

「私は紙芝居が好きですから紙芝居を通して楽しくいまの世の中政治について、一緒に考えていけるような輪を大きくしていければと思っています」

しんぶん赤旗 2022年5月4日(水)

### 憲法は絶対に変えさせない 平和な未来残そう 新潟



(写真) 横断幕を掲げ

訴える(左2人目から)藤田、片桐の各氏ら＝3日、新潟市中央区

9条改憲NO! 全国市民アクション@新潟は3日、新潟市で「5・3憲法記念日行動」を実施し、300人以上の参加者が横断幕やプラカードを掲げました。新潟県知事選(12日告示・29日投票)の片桐なおみ予定候補や参院選新潟選挙区予定候補の森ゆうこ参院議員(立憲民主党)ら7人がマイクを握りました。

県憲法センターの藤田孝一共同代表は、多くの日本とアジアの人々を犠牲にした戦争を二度と繰り返さないと決意した日本国憲法の精神を強調し、憲法を守る義務を負う首相や国会議員が改憲を主張するのは重大な憲法違反と批判。ウクライナ危機に乗じた敵基地攻撃能力や核共有議論を許さない国民世論を広げようと訴えました。

片桐氏は、武力行使を放棄した憲法9条こそが人間らしく生きる、人間の尊厳を守る条文だと指摘。ウクライナで原発が攻撃され、戦争の標的になる危険が明らかな時に、柏崎刈羽原発の再稼

働をやめて、平和で原発のない新潟県を未来に残すことは私たちおとなの責任だと訴えました。

森氏は、世界の秩序の再構築に、平和憲法を持つ日本のリーダーシップが期待されていると指摘。いま、自由、平和、民主主義が大きな分かれ目にあり、一緒に守り抜こうと呼びかけました。

### 護憲派「9条は世界の宝」、改憲派「改正議論推進を」 憲法記念日・新潟県内で街頭活動や集会

新潟日報 2022/5/4 10:00



ロシアによるウクライナ侵攻に抗議した市民団体の街頭活動＝5月3日、新潟市中央区

憲法記念日の3日、新潟県内では護憲派、改憲派の各団体が、憲法に関する街頭活動などを実施した。ロシアによるウクライナ侵攻で平和への意識が高まる中、護憲派は「戦争放棄を掲げる9条は世界の宝」と強調。改憲派は国防の強化を念頭に「改正の議論の推進を」と主張した。

新潟市中央区では、市民団体「9条改憲NO！ 市民アクション@新潟」の呼びかけで、市民約300人がスタンディング活動をした。ロシアによるウクライナ…  
残り 451 文字 (全文 : 660 文字)

### 憲法施行から75年…石川県内の護憲団体が金沢でパレード「憲法改悪NO」の横断幕持って練り歩く

石川テレビ 2022年5月3日 火曜 午後6:43



憲法施行から75年、石川県内の護憲団体が金沢市内でパレードを行いました。

このパレードは県平和運動センターや九条の会石川ネットなど県内の護憲団体が集まって開きました。

3日は金沢市内で憲法施行75年を記念した集会を開いた後、およそ500人が「憲法改悪NO」などと記した横断幕を持って市内を練り歩きました。

### 改憲派は「危機をすり替えている」 立教大・金子教授が講演

朝日新聞デジタル小田健司 2022年5月4日 11時00分



改憲派の姿勢を「すり替えた」と批判した金子勝

教授＝2022年5月3日、福井市

憲法記念日の3日、福井県内の護憲派市民団体が福井市のアオッサで集会を開き、立教大大学院の金子勝・特任教授が講演した。昨今の改憲ムードの高まりについて、「ウクライナへの侵略戦争で浮足立っている」と批判した。

改憲議論をめぐるのは、最近では特にコロナ禍以降、国家の危機に際し、政府に権限を集中させる緊急事態条項を盛り込むべきだとの主張が頻繁に聞かれるようになった。朝日新聞の世論調査で、56%が「改憲の必要性がある」と回答した結果を例に、「そうした世論にのせられてしまっている」と述べた。

また、企業の競争力が低下し、2021年度の貿易収支も2年ぶりに赤字に転落した現状を「50年に一度のピンチ」と表現。自民党をはじめ、野党の中にも改憲議論を進めようとする機運が高まっているが、「(特に改憲を強く主張する)安倍晋三元首相らは危機的な状況を憲法改正の話にすり替えている」と批判した。

講演会は、市民団体「戦争する国づくり反対！ 福井総がかりアクション」と「9条の会・ふくい」が主催した。(小田健司)

### 9条と平和考える 護憲派、改憲派 静岡県内でも集会

静岡新聞 2022年5月3日

憲法記念日の3日、静岡県内でも護憲派と改憲派の集会が開かれた。新型コロナウイルス禍に加え、ロシアによるウクライナ侵攻が続く中、参加者は自由や平和の尊さ、憲法の意義や在り方について改めて見つめた。

しずおか憲法9条を擁護し実現する会は、静岡市内で集会を開いた。福井淳会長は「日本国憲法の理念を再認識する機会にした」とあいさつ。早稲田大の水島朝穂教授が「平和の『守り方』と『創り方』」と題して講演し、ウクライナ侵攻を改憲の突破口にしようとする自民党などの動きを念頭に「憲法を変えるのではなく、ウクライナの復興のために何ができるかを考えるべき」と強調した。締めくくりとして、参加者が「憲法9条の理念は、まさに今日、国際社会での崇高な理念でもあり得る」とするアピールを採択した。

富士市では「日本会議静岡富士支部」が講演会を開催した。有識者のパネル討議では、ウクライナ侵攻を受け、台湾有事への対応などについて意見交換した。

内モンゴル出身で中国の民族問題を研究する楊海英静岡大教授は「台湾有事は日本有事」とし、「『核』や憲法9条が出ると日本人は思考停止する。平和の実現に何をすべきか考えないと」と指摘。改憲派の輿石逸貴弁護士は「ウクライナ侵攻を見て、多くの国民は集団的自衛権を駆使して臨機応援に立ち回らないと日本も危険だと分かった」と早期の改憲議論を求めた。

### 平和に憲法9条の力 一橋大名誉教授、市民の集いで講演 / 静岡

毎日新聞 2022/5/4 地方版

憲法記念日の3日、静岡市駿河区の県男女共同参画センターあざれあで、憲法を考える市民の集い(県憲法会議主催)が開かれた。記念講演をした渡辺治・一橋大名誉教授は戦後日本の平和に果たした憲法9条の力を評価した。

「いま憲法が問われている。岸田政権下、改憲の新局面と市民の課題」と題した記念講演で、渡辺氏は…

残り 154 文字 (全文 304 文字)

憲法観を語った。 (西田直見) ...

### 「憲法9条は最先端」 袋井で池内大名名誉教授が講演

中日新聞 2022年5月4日 05時05分 (5月4日 05時06分更新)



「日本国憲法は世界の平和主義の先端をいく」と話す池内了さん＝袋井市教育会館で

「憲法記念日袋井市民のつどい」(中日新聞東海本社後援)が三日、同市教育会館であり、池内了(さとる)・名古屋大名名誉教授が「日本国憲法こそが戦争を克服する!」と題して講演した。

池内さんは二度の大戦を経た世界の平和主義の流れを説明した上で、日本国憲法の九条について「最善の到達点であり、最先端」と指摘。ロシアによるウクライナ侵略を「世界史の逆行」と非難した上で、国内で防衛力強化や改憲の動きが出ていることについて「軍拡は、相手のさらなる軍拡を招くだけ」と疑問を呈し、「憲法の趣旨にのっとり、非武装、非暴力、不服従路線を徹底して追求することが、真の(戦争の)抑止力になる」と主張した。

つどいは市民の実行委員会が毎年開催。この日は約百五十人が参加した。(山本真嗣)

しんぶん赤旗 2022年5月4日(水)

### 憲法は絶対に変えさせない 参院選「改憲」争点 愛知



(写真) トークライブを聞く人たち＝3日、名古屋市昭和区

く人たち＝3日、名古屋市昭和区

憲法施行75周年の3日、名古屋市で「市民のつどい〜激動する世界と日本の憲法」が開かれました。オンラインも含め、約1300人が参加しました。主催は愛知憲法会議。

今回は、YouTubeなどで社会問題を発信する「せやろがおいおじさん」のトークライブと、ジャーナリストの青木理さんと水谷陽子弁護士(聞き手)の対談が行われました。蜂須賀太郎県弁護士会会長が連帯と激励のあいさつをしました。

せやろがおいおじさんは、憲法改正について「政府はコロナ対応の失敗を棚上げし、『緊急事態条項』や改憲などの目的達成にコロナを利用している」と指摘し、「与党は国会でちぐはぐな答弁を繰り返している。憲法より先にこれをまず正すべき」と話しました。

青木氏は対談で「憲法を守るべき人たちが憲法を変えようとしている。現在は言論、表現、報道の自由が保障されているが危うい状況。なくなる時はあつという間だ。その中で抵抗し、声をあげるジャーナリストを応援してほしい」と語りました。

本秀紀事務局長(名古屋大学教授)は「日本政府は『防衛計画の大綱』の秘密化を狙うなど『戦争をする国』に突き進んでいる」と指摘し、「改憲が争点になっていることを7月の参院選までに国民に広げよう」と呼びかけました。

### 改憲賛否、若者に問う 県平和委員会青年・学生部 名古屋 / 愛知

毎日新聞 2022/5/4 地方版

憲法記念日の3日、県平和委員会青年・学生部のメンバーら約10人が名古屋駅前、若者を対象に憲法改正への賛否などを問うアンケートを実施した。今年には改憲についての質問だけでなく、ロシアのウクライナ侵攻を受けて、日本が核兵器を保有することの是非についての質問も設けられた。

同部は憲法記念日に毎年街頭アンケートを実施しており、今回で27回目。同部によると、今年の実答者は80人と昨...

残り 282 文字 (全文 470 文字)

### 「学問と政治」テーマに憲法を交え講演 岐阜で立命大院教授

中日新聞 2022年5月4日 05時05分 (5月4日 12時09分更新)



講演する松宮教授＝岐阜市長良福光の長良川国際会議場で

川国際会議場で

憲法記念日の三日、菅義偉前政権時に日本学術会議会員への任命を拒まれた刑法学者の松宮孝明・立命館大大学院教授が、岐阜市長良福光の長良川国際会議場で講演した。...

### 名古屋で集会 ジャーナリストの青木理さん、国際情勢への見解語る

中日新聞 2022年5月4日 05時05分 (5月4日 11時17分更新)



国際情勢や憲法観を語る青木さん＝名古屋市

昭と区で

日本国憲法施行から七十五年となった三日、「激動する世界と日本の憲法」と題した市民集会が名古屋市昭和区の市公会堂で開かれ、ジャーナリスト青木理さん(55)が登壇した。県弁護士会の水谷陽子弁護士との対談形式で、国際情勢への見解や自身の

### 県内各地で集会や街頭活動 憲法と平和を考える

中日新聞 2022年5月4日 05時05分 (5月4日 13時25分更新)

憲法記念日の三日、県内各地で憲法に関する集会や街頭活動が催された。(寺岡葵、奥村友基)



通行人らに憲法9条の大切さを伝える

松阪九条の会会員ら＝松阪市の松阪駅前

戦争しない日本を 松阪駅前「九条の会」

松阪市民らでつくる「松阪九条の会」は、市内の四カ所を巡り、憲法九条や平和の大切さを伝えるスピーチをした。...

### 憲法記念日 護憲、改憲派が集会 各地で主張訴え /三重 毎日新聞 2022/5/4 地方版

憲法記念日の3日、護憲派と改憲派がそれぞれ県内各地で集会を開いた。「津センターパレスホール」(津市大門)では「憲法改正実現大会 in 三重」が開かれ、自民党の稲田朋美衆院議員が約350人(主催者発表)を前に講演した。

稲田氏は、ロシアのウクライナ侵攻を挙げて「私たちは明らかな侵略行為、国際法違反を目的...  
残り 223 文字 (全文 373 文字)

### 「自分なりの意見を」 弁護士の椋さん、桑名で講演 中日新聞 2022年5月3日 05時05分 (5月3日 12時18分更新)



政治家に見立てたライオンのぬいぐるみを使い、憲法について解説する椋さん＝桑名市中央町の市パブリックセンターで

憲法入門書「檻(おり)の中のライオン」などの著作で知られる、弁護士の椋(はんどう)大樹さん(46)＝広島市＝の講演が一日、桑名市中央町の市パブリックセンターであり、「憲法とは何か」をテーマに解説した。(尾林太郎)...

憲法入門書「檻(おり)の中のライオン」などの著作で知られる、弁護士の椋(はんどう)大樹さん(46)＝広島市＝の講演が一日、桑名市中央町の市パブリックセンターであり、「憲法とは何か」をテーマに解説した。(尾林太郎)...

### 日本の平和どう守る 憲法記念日 改憲・護憲派各地で訴え/三重 読売新聞 2022/05/04 05:00

憲法記念日の3日、県内でも改憲と護憲、それぞれの立場から憲法のあり方について考える集会や街頭活動が行われた。

自民党県連の集会で講演する稲田氏(津市で)



自民党県連の集会で講演する稲田氏(津市で)

自民党県連は津市内で、稲田朋美元防衛相を招いて「憲法改正実現大会 in 三重」を開催し、県選出の国会議員や地方議員、党員らが参加した。

講演で稲田氏は、現行憲法の前文について、「日本が他国を侵

略しない限り、世界平和は保たれるとの前提で書かれている」と指摘。その上で、「ロシアのウクライナ侵略により、我々は日本が何もしなくても他国に侵略されるかもしれないという現実を目の当たりにしている」とし、「自衛隊をしっかりと憲法の中で読み込めるようにしておくことが、日本が生き延びるために必要なことだ」と強調した。

さらに、非常時に国会議員の選挙ができない場合には、議員の任期を延ばせるようにするなどの緊急事態条項も必要だと訴えた。



チラシを配り、護憲を訴える市民団体のメンバー(右)(四日市市で)

一方、現行憲法の維持を主張する人たちも、県内各地で街頭に立った。

四日市市の近鉄四日市駅前では、市民団体「戦争をさせない三重県1000人委員会よっかいち」のメンバーら約15人が、通行人らにチラシを配るなどして、護憲の必要性を主張した。

この日は、ロシアのウクライナ侵攻をきっかけに、憲法9条を主眼に置いた改憲の動きを批判した。

同団体の世話人で、元弁護士の渡辺伸二さん(69)は「自衛のための戦争を認めて改憲すれば、あらゆる戦争を許すことになる」と呼び掛けた。街頭活動後、渡辺さんは「世界情勢が不安定な今こそ、平和を追い求める現行憲法を守らなければいけない」と話していた。

### 憲法記念日 滋賀首長九条の会、発足 武村元知事ら19人「戦争繰り返さぬ」 /滋賀 毎日新聞 2022/5/4 地方版



発足式で憲法9条を守ることを訴える横断幕掲げる滋賀首長九条の会の役員ら＝大津市生涯学習センターで2022年5月3日午後2時11分、飯塚りりん撮影

憲法記念日の3日、県内の首長やその経験者らが集まり、戦争放棄などを定めた憲法9条を守ることを掲げた「滋賀首長九条の会」が発足した。会員は19人で、武村正義元知事(元官房長官)、嘉田由紀子前知事(現参院議員)、平尾道雄・米原市長ら6人が共同代表を務める。都道府県単位の「首長九条の会」は、東北6県に続いて全国7例目という。

大津市本丸町の市生涯学習センターで開かれた発足式で、武村氏は「戦争を繰り返してはいけない。憲法施行から75年、ますます9条の役割を守り、生かすことが求められている」と呼びかけた。

残り 206 文字 (全文 457 文字)

### 戦争放棄の憲法守れ 大津でデモ行進

中日新聞 2022年5月4日 05時05分 (5月4日 14時03分更新)



「戦争反対」などとデモ行進で声を上げる集会  
参加者ら＝大津市内で

憲法記念日の三日「9条改憲を許さない 滋賀県民集会」が大津市の湖岸なぎさ公園であった。市民ら百人が参加し、憲法改正やロシアのウクライナ侵攻に反対することを訴えた。...

しんぶん赤旗 2022年5月4日(水)

憲法は絶対に変えさせない 世界の最先端の宝 京都



(写真) デモ行進する金平氏 (先頭左から2人目)ら参加者＝3日、京都市東山区

憲法9条京都の会と「9条改憲NO! 全国市民アクション・京都」が共催する「5・3憲法集会」が3日、円山公園音楽堂(京都市東山区)で開かれ、2500人が参加しました。集会後、参加者らは「9条守ろう」などとコールし、繁華街をデモ行進しました。

ジャーナリストの金平茂紀氏が講演しました。金平氏は、ウクライナ現地に取材に入って感じた実感として「海外と戦争にならない関係をつくろうと言っている日本の憲法は世界の最先端。宝のような存在だ」と強調。「現地ですりついた結論は『殺すな』という言葉。ぜひみなさんも身近な人と憲法について話してみたい」と呼びかけました。

日本共産党を代表して井上哲士参院議員があいさつ。「夏の参院選で改憲勢力に3分の2の議席を絶対与えない、憲法を守る一致点で共同を広げよう」と訴えました。社民、新社会、緑の各党代表があいさつし、立憲民主党がメッセージを寄せました。

奈良新聞 2022.05.04

憲法記念日に講演、パレード 「お笑い」で伝える平和



パレードを行う参加者＝3日、奈良市登大路町

憲法記念日の3日、平和の大切さを考える「お笑いライブ&トーク」(平和じゃないと笑えないの会主催)が奈良市登大路町の県文化会館で開かれた。約290人が落語家の露の新治さんによるお笑いライブと、フリージャーナリストの志葉玲さんによるトークに聞き入った。

新治さんは、笑いを交えながら平和の尊さを講演。「5月3日

にこのような話ができるのは幸せなこと。お笑い芸人の立場からは、命や笑顔を大切にしたいと思います」と語った。

この記事の残り文字数：310文字

しんぶん赤旗 2022年5月4日(水)

憲法は絶対に変えさせない 9条いかに外交を 大阪



(写真) いっせいに

「戦争やめろ」のポテッカーを掲げる参加者＝3日、大阪市北区  
大阪市北区の扇町公園で3日、「5・3輝け憲法! 平和といのちと人権を! おおさか総がかり集会」(主催＝おおさか総がかり行動実行委員会)が開かれ、会場には3500人が参加し、オンラインで同時配信されました。集会後、梅田でスタンディング行動をしました。

ピースデポ代表の湯浅一郎さんがゲストスピーチ。ウクライナ侵略を機に、軍事力増強や憲法改悪の動きが強まる懸念を指摘し、憲法9条に依拠した軍事力によらない外交交渉の重要性を訴えました。

日本共産党、立憲民主党、社民党、れいわ新選組の各代表があいさつ。日本共産党の、たつみコータロー(辰巳孝太郎)前参院議員・大阪選挙区予定候補は「国際社会が一致団結してロシアの侵略をやめさせよう」と呼びかけました。

核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)国際運営委員を務める川崎哲さんがビデオメッセージ。マイク・サン・ライブが演奏し各分野の市民がリレートーク。参加者全員で「戦争やめろ」「いかに憲法」のポテッカーを掲げてアピールしました。

大阪で憲法記念日集会 ウクライナ侵攻念頭に訴え

毎日新聞 2022/5/3 21:21 (最終更新 5/4 06:57)



護憲派集会でメッセージを掲げる

人たち＝大阪市北区で2022年5月3日午後2時34分、藤井達也撮影

日本国憲法施行(1947年)から75年を迎えた「憲法記念日」の3日、護憲派と改憲派が各地で集会を開き、それぞれの主張を訴えた。参加者らはロシアによるウクライナ侵攻などを念頭に、現行憲法の意義を問い直したり、あるべき憲法像について語ったりした。

大阪市北区の扇町公園で護憲派の市民団体による集会「輝け憲法! 平和といのちと人権を!」が開かれ、約3500人(主催者発表)が集まった。NPO法人の代表や国会議員らがマイクを握り、ウクライナ侵攻に触れつつ、護憲や戦争反対を訴えた。

NPO法人ピースデポの湯浅一郎代表(72)が登壇し「憲法9条に依拠しながら、軍事力に頼らないでも生きていく方法を

実現しなければいけない」と訴えた。さらに「戦争が繰り返され、苦い体験の中から国際人道法や国連憲章といった国際的な合意を積み重ねてきたのに、ロシアが破っている」と批判した。

また、国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN)」の川崎哲 (あきら)・国際運営委員は「核戦争をなくす方法は核兵器を廃絶すること。岸田 (文雄) 首相、被爆国として核兵器のない国を目指すなら行動で示してほしい」とのメッセージを寄せ、6月にウィーンで開かれる核兵器禁止条約第1回締約国会議への参加を求めた。

集会には立憲民主、社民、共産、れいわ新選組の野党4党の国会議員らが出席。集まった参加者とともに「いかそう憲法」などと書かれたポスターを掲げ、声を上げた。



第24回公開憲法フォーラムで流された岸田文

雄首相のビデオメッセージ=東京都千代田区で2022年5月3日午後2時5分、宮武祐希撮影

改憲を目指す「美しい日本の憲法をつくる国民の会」などの団体は東京都千代田区で「公開憲法フォーラム」を開いた。約500人 (主催者発表) が集まった。

岸田文雄首相がビデオメッセージを寄せたほか、防災の研究者や元自衛官らが登壇し、それぞれの専門分野の知見を踏まえて改憲の必要性について語った。発言した人の多くが、政府の権限強化と国民の権利制限につながる「緊急事態条項」の新設を掲げた。ウクライナ侵攻への危機感から「(憲法に基づく) 専守防衛はざれ言だ」「中国こそ私たちにとっては脅威」といった主張も聞かれた。

「国民の会」共同代表の桜井よしこさんは「(日本国民は) 平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」という憲法の前文のくだりを念頭に「他国の信頼や善意を信頼して日本国政府は何もしなくていいと書かれた前文の精神を引き破るのが私たちの責任」と訴えた。また、改憲を党是とする自民党に対し「日本男児なら頑張れ」と呼びかける場面もあった。【安元久美子、春増翔太】

### 「憲法改正」「アメリカとの核共有」どう思う？市民団体が若者100人にアンケート

毎日放送 2022年5月3日(火) 12:16

日本国憲法が施行されて75年となる5月3日、大阪市内では市民団体が若者100人を対象に憲法などについてアンケートを行いました。

憲法記念日に合わせ大阪の市民団体「大阪平和委員会」が若者100人に、憲法に関するアンケートを実施しました。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻で平和に対する意識が高まる中、アンケートでは「憲法改正」や「アメリカとの核共有議論」などについて質問しました。

(10代)

「(憲法は) 今のままでいいのかなと戦争してほしくない」

(10代)

「憲法9条を変えてほしくないけど、このまま戦争が長期化し

ていったら意見も分かれてくるかなと思う」

(20代)

「ロシアの侵攻が起きてからは (戦力は) 持っておいたほうがいいのかなど」

団体は「憲法をより身近なものとして考えてほしい」としています。アンケートは大阪以外でも実施されていて団体は近日中に結果を公表します。

### 護憲・改憲、街頭で訴え 双方、ウクライナ侵攻念頭に /和歌山

毎日新聞 2022/5/4 地方版



演説する「憲法改正県民会議」の門代表 (左)

=和歌山市で2022年5月3日午後1時24分、大塚愛恵撮影

憲法記念日の3日、和歌山市のJR和歌山駅前前で護憲、改憲を訴える団体が、それぞれ街頭集会を開いた。共にロシアによるウクライナ侵攻も念頭に、主張を繰り広げた。

護憲派は、弁護士でつくる「憲法9条を守る和歌山弁護士の会」など3団体が呼び掛け、約70人が集まった。横断幕などを手に反戦の歌を歌ったり、熱弁を振るったりした。市民団体「憲法九条を守るわかやま県民の会」の琴浦龍彦代表委員は「軍事…残り288文字 (全文480文字)」

### 憲法記念日に護憲派、改憲派がそれぞれ集会

朝日新聞デジタル井岡諒 2022年5月4日 10時00分



護憲派の憲法集会に登壇した金平茂

紀さん=2022年5月3日午後1時33分、みなとのもり公園、井岡諒撮影



憲法記念日の3日、ロシアによるウクライナ侵攻で憲法9条の改正や国防のあり方をめぐる議論が起きている中、神戸市中央区では護憲派と改憲派がそれぞれ集会を開いた。

護憲派の市民団体や労働組合が中心となって、みなとのもり公園で開いた「5・3兵庫憲法集会」には、約3千人 (主催者発表) が参加した。

ジャーナリストの金平茂紀さんが登壇し、侵攻後のウクライナでの取材を振り返り、「戦争はどんな理屈をつけてもしてはいけない。日本国憲法は今の世界の最先端で、宝物だ」と訴えた。敵

の基地をたたき「反撃能力」の保有などを自民党が政府に提言したことを踏まえ、「憲法9条が空洞化する。黙っていても良いのか」と呼びかけた。

改憲派の「美しい日本の憲法をつくる兵庫県民の会」などは、憲法改正を求める国会議員や有識者らが東京で講演した「公開憲法フォーラム」をネット中継する催しを兵庫県学校厚生会館で開き、約90人が参加した。(井岡諒)

しんぶん赤旗 2022年5月4日(水)

### 憲法は絶対に変えさせない 反戦の願いの結晶 兵庫



(写真)「戦争させない

9条壊すな」と書いたボードをいっせいに掲げる参加者=3日、神戸市中央区

「戦争させない、9条壊すな! 5・3兵庫憲法集会」が3日、神戸市中央区・みなとのもり公園で開かれ、3000人が集まりました。兵庫県憲法共同センター、「戦争をさせない1000人委員会・ひょうご」、9条の心ネットワークでつくる「総がかり行動兵庫県実行委員会」の主催。

メインスピーカーの金平茂紀さん(ジャーナリスト)が、ロシアの侵攻翌日にウクライナ入りしたことにふれ、「絶対に戦争を起こしてはいけないと思った」と強調。「その結晶が日本国憲法。犠牲のうえに手に入れた、世界で最もすすんだ法律。これを変える動きに黙っていいのか」と語りました。

来賓あいさつした日本共産党の、こむら潤参院兵庫選挙区予定候補は「参院選は平和憲法を守れるかどうかの正念場」と訴え、立憲民主党の井坂信彦衆院議員もあいさつしました。

9条の心ネットの羽柴修代表が主催者あいさつ。ソウル・ゴスペルシンガーの新井深絵さんのミニコンサートもありました。

ウェブ配信もされました。

神戸新聞 2022/5/3 17:55 神戸新聞 NEXT

### 憲法9条「世界で最も先進的」 改憲反対訴え神戸で集会、パレード



憲法記念日に合わせて、改憲反対を訴え

た集会=神戸市中央区小野浜町、みなとのもり公園

憲法記念日の3日、改憲反対を訴える集会が、神戸市中央区小野浜町のみなとのもり公園であった。約3千人が集まり、「戦争

させない」「9条壊すな」と書いた紙を掲げた。

記念日の集会は、兵庫県内の護憲派団体などでつくる「戦争させない、9条壊すな! 総がかり行動兵庫県実行委員会」が2016年から企画しているが、20、21年は新型コロナウイルスの感染拡大で開催できていなかった。

ジャーナリスト金平茂紀さんが講演し、ロシアが軍事侵攻するウクライナで取材した経験に触れた上で、憲法9条を「世界で最も先進的」と語った。

閉会后には同公園からJR元町駅前までパレードを実施し、感染防止のためシュプレヒコールは控えつつ、のぼりや横断幕を手で思いを訴えた。(大田将之)

しんぶん赤旗 2022年5月4日(水)

### 憲法は絶対に変えさせない 二度と戦争しない 広島



(写真)横断幕を掲げてアピ

ールするメンバーら=3日、広島市

平和を願う広島県内の幅広い女性たちが憲法記念日の3日、広島市の原爆ドーム前で「憲法を守り生かす社会に」「NO WAR ウクライナに平和を」と書かれた横断幕を掲げ宣伝し、憲法9条を問うシールアンケートに取り組みました。主催は「5・3憲法を活(い)かそう女たちの会」。22人が参加しました。

シールアンケートでは、親子連れや若いカップルなどが相次いで応じました。「憲法を変える」が12人、「わからない」が17人の一方、圧倒的多数の150人が「憲法を守る」にシールを貼りました。

リレートークで、ロシアによるウクライナ侵略と核の威嚇を非難するとともに、危機に便乗して安倍元首相や維新などが改憲に突き進み、核共有を表明していることを厳しく批判。戦争放棄を掲げた憲法9条を持つ国としてイニシアチブを発揮し、「武力ではなく外交の力でこの危機を乗り切るべきだ」と訴え。日本が戦後、戦争をすることなく平和でこられたのは「ひとえに憲法9条があり、戦争を経験した多くの人がもう二度と戦争をしないという確固たる決意があったからだ」と力を込めました。

「憲法を守る」にシールを貼った女子高校生は「戦争を放棄した憲法を変えてほしくありません。9条を変えようという動きに怖さを感じます」と話しました。

日本共産党の中村たかえ参院選挙区予定候補が参加しました。

### 「憲法は守るべきか、変えるべきか」 憲法記念日に護憲派・改憲派がそれぞれ集会 広島

中国放送 2022年5月3日(火) 17:32

憲法記念日の5日、ロシアによるウクライナへの侵攻が続く中、護憲派と改憲派が集会を開きました。あなたは、どう考えますか? 小林康秀キャスター

「広島市の市民団体による憲法9条をめぐるシール投票は、コロナ禍のために3年ぶりとなりましたが、ウクライナ情勢のために今年は少し意味合いが少し違うようです」



原爆ドーム（広島市中区）前で行われたシール投票は、ロシアのウクライナ侵攻反対の横断幕が掲げられる中で、行われました。



「9条を守る」に投票した人

「(子どもが) テレビでウクライナとか見ているので、怖いって言ってちょっと不安定になっていて、親としても他人事ではないなど改めて思うので守っていきな」と

「9条を変える」に投票した人

「9条を変えて、しっかり自力で侵略を受けないような体制を整えないと、ウクライナのように思う」

広島市中区では護憲派の市民グループが集会を開きました。



集会では、平和研究に詳しい新潟国際情報大学の佐々木寛教授が講演。日本国憲法は現実的ではないという改憲派の考え方にに対し、「ウクライナ侵攻では世界中で戦争反対の運動、市民社会の連帯が起きた。この連帯に基づいて平和をつくることを日本国憲法はうたっている。憲法の理想は21世紀ではむしろ現実主義的だ」と主張しました。



実行委員会共同代表の山田延廣弁護士

「憲法を改正して、軍隊を持って、敵地を攻撃する能力を持ったり、核兵器を保有して本当に安全か。もう少し冷静な目で、自分たちの頭で、日本の国として、どうやって子孫を守っていくか考えた方がいい」

一方、広島市安佐南区では憲法改正を掲げる自民党の、支部による集会が開かれました。



岸田文雄自民党総裁

「憲法改正に向けた機運をこれまで以上に高めていきたいと」



講演したウクライナ人ジャーナリストのナザレンコ・アンドリー氏は、ロシア侵攻を受けている母国の現状に触れながら、日本を取り巻く環境も厳しさを増していると指摘しました。



ナザレンコ・アンドリー氏

「もし、一方的な武力行使がまかり通るような世界になってしまえば、今度は日本は無関係ではいられない。今度は必ず台湾の危機が起きてしまう。そうなったら遅い」

自民党 石橋林太郎衆院議員（比例中国）

「75年前と今、わたしたちが暮らしているこの令和の時代では、大きく国内においても国外においてもさまざまな環境・社会環境が変わってきている。安心安全を確保することができるような改正をしていくべきでは」

### 改憲・護憲両派が広島で集会 憲法記念日【憲法施行75年】

2022/5/3（最終更新: 2022/5/3）



facebooktwitterLINE 憲法9条改正の是非をシールで投票する市民

憲法記念日の3日、憲法改正について考える集会が広島市中区であった。ロシアによるウクライナ侵攻を受け、緊急事態への対応や9条の在り方などをテーマに改憲派、護憲派がそれぞれの主張を繰り広げた。

改憲を党是とする自民党の支部が開いた憲法研修会には約180人が参加。党総裁の岸田文雄首相（広島1区）はビデオメッセージで、ウクライナ情勢を受け「緊急事態への関心が高まっている。改憲に向けた機運をこれまで以上に高めたい」と強調した。在日ウクライナ人の講演もあった。

原爆ドーム前では、市民団体「5・3憲法を活かそう女たちの会」がシールで9条をどうすべきかを尋ねた。185人が回答し、「守る」が148人、「変える」が15人、「わからない」が22人だった。西区の心理カウンセラー梶山佳世さん（49）は「今の9条でも平和は守られている」と「守る」に投票していた。

一方、護憲派の市民団体でつくる実行委員会が催したヒロシマ憲法集会には約260人が出席した。講演した新潟国際情報大の佐々木寛教授（55）=政治学=は「戦争を知らない世代が政治を牛耳っている」と、自民党が改憲案に盛り込んだ緊急事態条項の新設などを批判した。（河野揚）

改憲、護憲 平和考える 広島市内で集会 / 広島

毎日新聞 2022/5/4 地方版

憲法記念日の3日、広島市内で改憲、護憲それぞれの立場から議論する集会があった。

自民党県泉院比例第2支部が安佐南区民文化センターで開いた憲法座談会には約100人が参加。緊急事態条項などを設ける改憲案の説明を受けた。石橋林太郎衆院議員は「日本が核を持つべきかの議論が抑止力につながる」と述べ、在日ウクラ…  
残り227文字 (全文378文字)

### 憲法を考える集会、山口で開催

朝日新聞デジタル大藤道矢 2022年5月4日 9時30分

憲法記念日の3日、ロシアのウクライナ侵攻や国会の憲法審査会、新型コロナウイルス対応などについて考える集会が山口市の市民会館で開かれた。約120人の市民が参加した。

この日のテーマは「9条で、どうやって、平和な世界をつくるかー理想を掲げて現実を変える力ー」。鈴木眞澄・龍谷大名誉教授が講演し、「憲法の平和主義がもつ力を再認識して、『平和は我がこと』と考えることが重要だ。戦争は人間同士の殺し合いであり、対話によってのみ平和を実現しようという日本国憲法の原理は根源的な平和思想の表現だと信じる」と語った。

集会では、「米軍岩国基地由来の新型コロナウイルス感染拡大で見えた問題点」と題して、岩国市の市民団体「住民投票を力にする会」の松田一志代表も報告。「市民社会の信頼のネットワークを地球上に張り巡らし戦争反対の声をあげていこう」などとしたアピールを採択した。(大藤道矢)

### 「改正でなく対話を」山口120人参加し憲法集会

山口新聞 2022年05月04日 06時00分



憲法記念日の3日、「憲法を活(い)かす市民の会・やまぐち」と県教組などでつくる憲法を守る山口集会実行委員会が山口市中央の市民会館で、憲法集会を開き、約120人が参加した。

同実行委事務局担当の内山慎吾弁護士が「民主主義と自由がなければ平和は守れない。平和を考えることは憲法を考えること。憲法をどう生かすのか考えたい」とあいさつ。元山口大教授で龍谷大の鈴木眞澄名誉教授が「壊憲と改憲の中で9・・・

### 東京新聞・望月記者 憲法9条保護訴え 松江で講演

山陰中央新報 2022/5/4 04:00

日本国憲法施行75年を迎えた3日、護憲の立場で東京新聞記者の望月衣塑子さん(46)が松江市内で講演した。ロシアのウクライナ侵攻という「危機」と絡めた改憲論に対し「憲法9条を守り、外交努力を重ね..

残り225文字 (全文: 322文字)

### 憲法記念日「ジェンダー平等」テーマに弁護士が講演 久留米市

西日本新聞 2022/5/4 6:00 玉置 采也加



ジェンダー平等などについて説明する山崎

弁護士

憲法施行75年となった憲法記念日の3日、女性協同法律事務所(福岡市)の山崎あづさ弁護士が「ジェンダー平等と平和な社会を」と題し、久留米市の久留米シティプラザで講演した。筑後地区の市民有志の「5・3 憲法を考える集い」実行委員会が開いた。...

残り205文字

### 「ジェンダー平等は女性だけの問題ではない」憲法記念日に講演会

RKB 毎日放送 2022年5月3日(火) 18:38

5月3日は憲法記念日です。福岡県久留米市で憲法に基づいて平和やジェンダー平等を考える講演会が開かれました。

久留米市に設けられた会場では、憲法や女性の権利問題に詳しい山崎あづさ弁護士が「ジェンダー平等と平和な社会を」をテーマに講演しました。

山崎弁護士はまず「平和主義」をうたう憲法第9条が定められた経緯や条文の内容を解説したうえで、物事を武力でなく対話で解決するのが憲法が目指す「平和」であると述べました。一方、ジェンダー平等については女性だけの問題ではないとしたうえで、憲法第13条が定める「個人の尊重」につながるもので、社会全体で実現する必要があると述べました。

講演に続いて意見交換会も行われ、約100人の参加者は憲法に関する理解を深めていました。

### 宏池会元領袖・古賀誠氏が9条「語る会」を立て続けに開く背景

西日本新聞 2022/5/3 6:00 (2022/5/3 9:51 更新)湯之前 八州、大坪 拓也



「反戦は政治家の哲学でなければならない」と語り、憲法9条の堅持を訴える古賀誠氏=4月16日、福岡県大牟田市  
「反戦は政治家の哲学でなければならない」と語り、憲法9条の堅持を訴える古賀誠氏=4月16日、福岡県大牟田市

自民党の古賀誠元幹事長(81)が、ロシアのウクライナ侵攻を機に勢いづく憲法9条の改正論議に警鐘を鳴らす動きを強めている。地盤とした福岡県南部で「語る会」を重ね、改憲に前のめりな党の現状を批判、平和憲法の堅持を訴える。岸田文雄首相を出した「宏池会」(岸田派)のかつての領袖(りょうしゅう)で、自民の一部に影響を残す古賀氏。党内では夏の参院選を前に、9条への自衛隊明記を掲げる党改憲案と逆の主張を警戒する声も聞かれる。

「平和が今、脅かされている。戦争が近づきつつある国になっ

ている」

4月16日午後、大牟田市の大牟田文化会館。古賀氏は論すように語り始めた。「自民は保守政党だが、保守がどんどん右に偏っている」「ウクライナの毎日の映像を見ると、大牟田が爆撃を受け、焼けた炎を思い出す。理屈じゃない。戦争はやってはいけない」。声を高めて締めくくると、数百人から拍手が湧いた。

語る会は「政治家の一分 憲法9条は世界遺産」と題して、4月に久留米市や柳川市などで計4回開催。太平洋戦争で父親を亡くし、これまでも著書などで「9条は一切改正してはダメだ」と発信していたが、加速度的に高まる改憲機運に危機感を抱き、計画したという。

古賀氏は2012年に国会議員を退いた後も、20年まで宏池会の名誉会長を務めた。自民の有力支持団体である日本遺族会の会長も経験、今も多くの会員に慕われている。「9条を心に刻み続けたい」と訴え、9条改正に反対する古賀氏の持論が浸透すれば、参院選で勝利して政権の安定を目指す首相に対し、かつての「後見役」が足を引っ張る形になりかねない。

「9条堅持は古賀さんのライフワーク。気にしている人はいない」。宏池会のメンバーの多くは古賀氏を「過去の人」と捉え、「影響はない」との見方を示す。一方で、参院選で実動部隊となる九州のある自民県議は神経をとがらせた。「改憲が現実味を帯びれば帯びるほど、反発する世論も大きくなる。古賀氏の動きを侮ってはいけない」

(湯之前八州、大坪拓也)

## ウクライナ侵攻が長期化する中、憲法改正に賛成・反対それぞれの立場で集会【長崎】

長崎放送 2022年5月3日(火) 19:00

憲法が施行されてから75年、3日は憲法記念日です。

長崎市では憲法改正に賛成・反対それぞれの立場で集会が開かれました。



ながさき9条フェスタは憲法9条を守ろうと長崎市の市民団体らが開いているものでパレードには市民およそ150人が参加しました。

(参加者)「戦後、海外で武力行使をしなかったのは憲法9条があったからこそ」

集会では『自民党が防衛費を増額するよう政府に提言するなど、憲法の平和の理念とは真逆(まぎやく)』の方向に向かっている』として9条を守るよう訴えました。

参加した被爆者 川野 浩一さん「私は戦争をしないというのを前提のもとに、平和があると思うんですね。そのことを他の国々に対して知らしめていく必要があると思うんですね。そのことが今の日本の役目じゃないかと思えますから」

ロシアによるウクライナ侵攻が長期化する中、集会では「いまこそ世界に9条を広げるべきだ」とするアピールを採択しました。



一方、憲法改正を目指す市民団体も3日午後、長崎市で憲法フォーラムを開き、およそ50人が参加しました。

3年ぶりに開かれた今回のフォーラムは、東京の会場とオンラインで繋がれ、ジャーナリストの櫻井よしこさんらが登壇。

ロシアによるウクライナ侵攻などを踏まえ、いまの憲法では危機に対応できないとして、憲法に自衛隊を明記することや、大災害などの緊急時に政府の権限を強化する「緊急事態条項」の導入を訴えました。

美しい日本の憲法をつくる国民の会 共同代表 櫻井 よしこさん  
「核兵器が本当に使われる可能性、危険性が現実味を帯びている。

憲法改正を一日も早く岸田政権の下で行い、独立国としての日本国をつくっていききたい」

憲法改正について JNN 世論調査(4/2~3 RDD 方式・有効回答1217人)によりますと、「改憲すべき」と答えた人が53%、「改憲すべきでない」と答えた人が32%となっています。

## 憲法施行75年 長崎で集会 改憲派「国民を守れるか」 護憲派「どさくさの議論」

2022/5/4 10:30 (JST)5/4 10:37 (JST)updated 長崎新聞



「今の憲法で本当に国民を守れるか」

との声が上がった改憲派の集会＝長崎市内のホテル

日本国憲法は1947年の施行から75年。新型コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻を受け、国会で改憲に前向きな勢力が勢いを増す。憲法記念日の3日、長崎市内で開かれた集会で改憲派は「今の憲法で本当に国民を守れるか」と9条改正や緊急事態条項の新設などを主張。一方、護憲派は「どさくさの中での安易な議論はあってはならない」と危機感を募らせた。

改憲派の「美しい日本の憲法をつくる長崎県民の会」が主催した「憲法フォーラム」。東京の全国集会の様子がライブ配信され、「(改憲に)挑戦し続けなければならない」と決意を語る岸田文雄首相のビデオメッセージに、長崎会場の参加者約60人から拍手が湧いた。

県民の会の坂井俊之共同代表はあいさつで、ウクライナ情勢や日本を取り巻く安全保障環境の厳しさを挙げ、「(私権制限を含め)国民を安全に避難させるのに、今の憲法ではむしろ制約があるのでは」と改憲の必要性を訴えた。

コロナ禍とロシアのウクライナ侵攻の「非常事態」に伴い国会の改憲論議が活発化。自民党の改憲案4項目のうち、とりわけ、大規模災害や他国からの侵略、感染症などに対応する緊急事態条項の新設は国民の間にも賛成の声が多い。坂井氏は「憲法改正の機はすでに熟した」とみる。

加えて、北村芳正事務局長(62)は「外国軍隊の侵略に対し(日本は)撃退できるのか」と語り、「9条への自衛隊明記」も求め

た。

## 9条、今こそ世界に 憲法記念日 護憲派が長崎市で集会 改憲派のイベントも

西日本新聞 2022/5/4 11:30



泉 修平



長崎市中心部で憲法改正

反対を訴える人たち



東京であった改憲派の集会のインターネット

中継を視聴する参加者

憲法記念日の3日、長崎市内で「ながさき9条フェスタ」(実行委員会主催)があった。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻を受け、与党を中心に改憲議論を促す声も上がる中で、戦争放棄や戦力の不保持を定めた憲法9条がこれまで果たしてきた役割を振り返り、護憲を訴えた。

同市民会館での集会には約300人が参加。...

## 憲法施行75年 長崎で集会 改憲派「国民を守れるか」 護憲派「どさくさの議論」

2022/5/4 10:30 (JST)5/4 10:37 (JST)updated 長崎新聞



「今の憲法で本当に国民を守れるか」との声が上がった改憲派の集会＝長崎市内のホテル

日本国憲法は1947年の施行から75年。新型コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻を受け、国会で改憲に前向きな勢力が勢いを増す。憲法記念日の3日、長崎市内で開かれた集会で改憲派は「今の憲法で本当に国民を守れるか」と9条改正や緊急事態条項の新設などを主張。一方、護憲派は「どさくさの中での安易な議論はあってはならない」と危機感を募らせた。

改憲派の「美しい日本の憲法をつくる長崎県民の会」が主催した「憲法フォーラム」。東京の全国集会の様子がライブ配信され、「(改憲に)挑戦し続けなければならない」と決意を語る岸田文雄首相のビデオメッセージに、長崎会場の参加者約60人から拍

手が湧いた。

県民の会の坂井俊之共同代表はあいさつで、ウクライナ情勢や日本を取り巻く安全保障環境の厳しさを挙げ、「(私権制限を含め)国民を安全に避難させるのに、今の憲法ではむしろ制約があるのでは」と改憲の必要性を訴えた。

コロナ禍とロシアのウクライナ侵攻の「非常事態」に伴い国会の改憲論議が活発化。自民党の改憲案4項目のうち、とりわけ、大規模災害や他国からの侵略、感染症などに対応する緊急事態条項の新設は国民の間にも賛成の声が多い。坂井氏は「憲法改正の機はずでに熟した」とみる。

加えて、北村芳正事務局長(62)は「外国軍隊の侵略に対し(日本は)撃退できるのか」と語り、「9条への自衛隊明記」も求めた。

## 憲法記念日に合わせ改憲求める団体が長崎でフォーラム

テレビ長崎 2022年5月3日 火曜 午後6:47



長崎市内のホテルでは、改憲を求める長崎市民など約50人が集まり、東京で行われている公開憲法フォーラムをインターネットで視聴しました。

フォーラムでは弁護士や大学教授などが講演し、今の憲法は安全保障上の危機を想定していないと指摘しました。その上で、憲法に自衛隊を明記して自衛隊違憲論を解消することや、緊急事態条項を新たに設け災害時には政府の権限を強めるべきと訴えました。

美しい日本の憲法をつくる国民の会 櫻井 よしこ 共同代表「憲法改正を一日でも早く岸田政権でやってのけて何回も憲法改正を重ねて本当に立派な独立国日本を作っていきたい」フォーラムを主催した「美しい日本の憲法をつくる国民の会」は、2022年夏の参院選では憲法改正の必要性を国民に訴え、機運を高めたいとしています。

## 郷土史家 越中哲也さんの遺志継ぐ「憲法さるく」長崎市の被爆遺構巡る

テレビ長崎RTN 2022年5月4日 水曜 午後7:33

2021年に亡くなった郷土史家 越中 哲也 さんが企画した「憲法さるく」が 越中 さんの遺志を継ぐ形で開かれ、参加者が長崎市の被爆遺構を巡りました。

町歩きを通して憲法や平和の大切さを学ぶ憲法さるくは年に1回開かれていて、2022年で15回目です。

被爆遺構がテーマで、魚雷の部品が製造されていた爆心地から約2.3キロの三菱兵器住吉トンネル工場などを巡りました。

講師 睦門 良輔 さん「(ロシアによる侵攻を受け)ウクライナでは地下壕を掘っている。早く戦争をなくしたい」

憲法さるくは2021年に亡くなった郷土史家 越中 哲也 さんが企画しました。

越中 さんを偲んで思い出話にも花が咲きました。

参加者 「(私は) 憲法さるくの常連。去年(2021年)は越中先生に案内してもらい自宅まで一緒に歩き感無量だった。歴史がぎゅっ頭の中につまみついて、博識だった」

講師 睦門さん 「越中先生は心から戦争は反対だと。戦争のない世界を作る(大切さ)先生に学んだ。平和な日本を作りたい」

越中 さんの遺志はこれからも受け継がれていきます。

## 75年目の憲法記念日 佐賀県内でも議論 改憲派「今年を憲法改正元年に」、護憲派「9条変える政治にノー」

佐賀新聞 5月4日(水) 6:00



護憲派が開いた憲法講演会で「憲法

は誰のためのものか」と題して講演した青山学院大教授の高佐智美氏＝佐賀市の県教育会館



アンドリュー・トムソン氏が日本や豪州

を取り巻く国際情勢について語った講演会＝佐賀市文化会館

日本国憲法施行から75年目となる憲法記念日の3日、佐賀県内で改憲と護憲を唱える団体が、それぞれ講演会を開いた。改憲派はロシアのウクライナ侵攻を引き合いに「今年を憲法改正元年に」と強調、護憲派は「9条を踏みこじり、戦争をする国にしようとする政治にはノーを」と訴えた。

改憲を目指す日本会議佐賀県本部は、佐賀市文化会館で講演会を開いた。約200人が参加し、森田淳理事長はあいさつで「東ヨーロッパで軍力による現状変更が行われようとしている今、東アジアも大変なことになるのではないかとされている。今年が憲法改正元年となることを祈念している」と強調した。

オーストラリアのアンドリュー・トムソン元スポーツ観光相(五輪担当)は、「中国の静かなる侵略」の演題で講演した。オーストラリアが中国の情報機関による工作疑惑に揺れたことや、近隣のソロモン諸島が中国の軍事拠点化への懸念が高まっていることを示し、中国の脅威に警鐘を鳴らした。その上で「憲法9条は今の国際情勢と全く合わない」と改憲と防衛予算を大幅に増やす必要性を挙げた。中国による台湾有事の可能性では「G7で防衛の議論を」と持論を展開した。(古賀真理子)

護憲派は佐賀県平和運動センターなどが佐賀市の県教育会館で講演会を開いた。小城市出身で青山学院大教授の高佐智美氏が難民や在留外国人の人権をテーマに講演し、約200人が参加した。

集会アピールでは、改憲派が9条を変える狙いを「海外で自由に戦争ができるようにすること」と指摘し、『力には力を』ではプーチンと同じとウクライナ侵攻で国際的な非難が高まってい

るロシアを引き合いに批判した。その上で、夏の参院選を見据えて「戦争をする国に変える政治にノーを突きつけ、改憲勢力を3分の2割れに追い込もう」と呼び掛けた。

高佐氏は憲法の基本的人権の尊重について外国籍の人が実質的に適用外になっているとし、「国籍は単なる目安で、もっと柔軟に考えることがグローバル社会における人権保障の在り方だ」と語った。(大橋諒)

## キーワードは「ウクライナ侵攻」 憲法記念日に熊本県内でも護憲派と改憲派がそれぞれ集会

熊本放送 2022年5月3日(火) 17:56

5月3日は憲法記念日です。

熊本県内でも護憲派、改憲派がそれぞれ集会を開きました。

共に訴えの軸となったのは「ウクライナ侵攻」でした。

熊本市で開かれた憲法改正に反対する「護憲派」の集会で講演した女性は、ロシアの「ウクライナ侵攻」を巡り両国の歴史を振り返ると、平和外交が重要だったとし憲法がうたう平和主義や9条の意義が再確認できると訴えました。

「戦争を起こさない努力。進めるためにも日本国憲法を守るということはとても大事な事かなど」(参加者)

また主催者からは「ウクライナ危機」に乗じた改憲の動きを許してはいけないとの声明が出されました。

一方、憲法改正を求める民間団体などが主催した集会では「自衛隊明記」の必要性が訴えられました。

「自国の防衛のために自衛隊を保持するというのが私は本当のあり方でなかろうかと思えます」(主催者)

会には岸田総理大臣が自民党総裁としてビデオメッセージを寄せました。

「憲法にどのように位置づけるかは極めて重要な課題です」(岸田文雄 自民党総裁)

また岸田総理大臣はウクライナ侵攻をあげ、緊急事態への備えに対する関心が高まっていると強調しました。

## 「戦争を起こさない外交努力を」 大分で憲法記念日講演会

朝日新聞デジタル 白石昌幸 2022年5月4日 9時30分



講演を聴く参加者たち＝2022年5月

3日午前10時13分、大分市下郡、白石昌幸撮影

憲法記念日の3日、大分市の県教育会館で50回目となる「憲法記念日講演会」があった。「平和憲法を守る会・大分」の主催で、名古屋学院大の飯島滋明教授(憲法学)が「憲法の平和主義をどう考えるか」をテーマに講演。約200人(主催者発表)が聴き入った。

飯島教授はまず、ロシアによるウクライナ軍事侵攻の問題点を説明。「多くの女性や子どもなど民間人が犠牲となっている侵略行為であり、明確な国際法違反。武力行使の悲惨さが再確認された。戦争反対の声を大きくすることが必要だ」と指摘した。

また、ロシアの軍事侵攻を受けて、日本でも憲法9条の改正や核共有の議論が活発になっている現状にも言及。「軍事力で対応すれば日本は壊滅的な被害を受ける。戦争の悲惨さを見極めないことこそ『平和ボケ』だ。憲法前文や9条の理念に基づき、戦争を起こさない外交努力が政治に求められる」と訴えた。

「平和憲法を守る会・大分」の代表を務める岡村正淳弁護士は「私たちの旗印は護憲だったが、課せられているのは憲法を守らせ、違憲の流れを押し戻す能動的な憲法運動だ」と話した。(白石昌幸)

### 憲法記念日、護憲派と改憲派が大分市で集会

大分合同新聞 2022/05/04(水) 03:01.

憲法記念日の3日、大分県内では護憲派・改憲派がそれぞれ集会を開いた。切迫するウクライナ情勢などを背景に、憲法の在り方について考えた。「平和憲法を守る会・大分」など8団体は、大分市下郡の県教育会館で第50回憲法記念日講演会を開いた・・・

残り 539 文字

### 憲法記念日に各団体講演会 /大分

毎日新聞 2022/5/3 地方版

日本国憲法の施行から3日で75年を迎える。県内でも、市民団体が護憲や改憲の立場で講演会を開く。

「平和憲法を守る会・大分」などは午前10時から、大分市下郡の県教育会館で、第50回憲法記念日講演会「憲法の平和主義をどう考えるか」を開く。名古屋学院大の飯島滋明教授がウクライナ情勢を踏まえて講演する。入・・・

残り 158 文字 (全文 308 文字)

### 「日本の憲法は戦争の歯止め」 詩人・ビナードさん、宮崎市で講演会 /宮崎

毎日新聞 2022/5/4 地方版

憲法記念日の3日、米国人で広島市在住の詩人、アーサー・ビナードさん(54)の講演会「雨ニモマケヌ宮沢憲法 これからこの国はどこへ行く？」が宮崎市であり、家族連れら約30人が聴き入った。

子育てサークル「ママたちのお結び会」主催。ビナードさんは米国ミシガン州生まれ。大学卒業後に来日し、日本語で詩を書くほか、太平洋戦争体験者に聞き取りをした著書や平和を訴える絵本で日本絵本賞などを受賞している。

講演でビナードさんは自身が英訳した宮沢賢治の詩「雨ニモマケズ」を朗読。有名な東西南北の一節、<北ニケンクウヤソシウガアレバ ツマラナイカラヤメロトイヒ>を取り上げ、「東や西、南には無条件で駆けつけるのに、けんかや訴訟の場には状況を見極めて出ていかず、やめると勧める賢治は、一度始まれば介入しても終わらない戦争の本質を捉えている。軍隊を持たず外国に派兵しないとする憲法9条の理念と一致する」と持論を・・・

残り 127 文字 (全文 524 文字)

### 安全保障、9条在り方は 護憲、改憲 県民理解深める

宮崎日日新聞 2022年5月4日



憲法記念日の3日、護憲派、改憲派の各団体が講演会や集会を開き、県内でも安全保障の在り方や憲法9条などへの理解を深めた。

### 「日本の憲法は戦争の歯止め」 詩人・ビナードさん、宮崎市で講演会 /宮崎

毎日新聞 2022/5/4 地方版



自身が英訳した宮沢賢治の詩「雨ニモマケ

ズ」の絵本を手に、詩と憲法9条の共通点を語るビナードさん

憲法記念日の3日、米国人で広島市在住の詩人、アーサー・ビナードさん(54)の講演会「雨ニモマケヌ宮沢憲法 これからこの国はどこへ行く？」が宮崎市であり、家族連れら約30人が聴き入った。

子育てサークル「ママたちのお結び会」主催。ビナードさんは米国ミシガン州生まれ。大学卒業後に来日し、日本語で詩を書くほか、太平洋戦争体験者に聞き取りをした著書や平和を訴える絵本で日本絵本賞などを受賞している。

講演でビナードさんは自身が英訳した宮沢賢治の詩「雨ニモマケズ」を朗読。有名な東西南北の一節、<北ニケンクウヤソシウガアレバ ツマラナイカラヤメロトイヒ>を取り上げ、「東や西、南には無条件で駆けつけるのに、けんかや訴訟の場には状況を見極めて出ていかず、やめると勧める賢治は、一度始まれば介入しても終わらない戦争の本質を捉えている。軍隊を持たず外国に派兵しないとする憲法9条の理念と一致する」と持論を・・・

残り 127 文字 (全文 524 文字)

### ウクライナ侵攻、馬毛島基地計画…施行75年の憲法記念日 護憲派「原点考えよう」 改憲派「早期の実現を」 鹿児島県内で集会

南日本新聞 2022/05/04 11:30



講演をリモートで配信した護憲派の集会＝鹿児島

島市の県労働者福祉会館

憲法記念日の3日、護憲、改憲を主張する鹿児島県内の各団体が鹿児島市で集会を開いた。憲法施行75年の節目やロシアによるウクライナ侵攻を踏まえ、護憲派は「憲法の原点を考えよう」、改憲派は「危機突破のため早期実現が必要」と訴えた。

県護憲平和フォーラムは、前山口県岩国市長の井原勝介さん(71)のリモート講演を配信した。井原さんは米軍岩国基地(同市)を巡り、国が補助金カットと再編交付金のアメとムチで拡大

を進めた経緯を紹介。西之表市馬毛島の米軍機訓練計画などに触れ「一度できたら際限なく強化される。議論を尽くし、悔いがない選択を」と助言した。

平井一臣代表（64）は「戦争では市民が被害を受ける。基本的人権や生存権を定めた憲法の本質や内容を考えたい」と呼び掛けた。

かごしま県民交流センターでは「市民のつどい」（同実行委主催）があり、約200人が来場。現代教育行政研究会の前川喜平代表（67）がコロナ禍の子どもや若者をテーマに話した。

美しい日本の憲法をつくる鹿児島県民の会は同センターで「公開憲法フォーラム in 鹿児島」を開き、約150人が集まった。東京で開かれた集会をライブ中継し、政党や各界有識者の提言に耳を傾けた。

中継で岸田文雄首相は、緊急事態条項や国会の機能維持などの必要性を強調。「衆参憲法審査会で議論が進んでおり、主権者である国民の議論も高めていきたい」と述べた。

参加者らは、緊急時や安全保障上の危機を突破するために憲法改正が必要だとして、各党に参院選での議論と改憲への合意形成を求める声明を出した。日本会議鹿児島の高橋辰治専務理事（64）は「憲法改正を真剣に考えるきっかけにしてほしい」と話した。

## 5月3日は憲法記念日 施行75年 改憲派と護憲派がそれぞれ集会

南日本放送 2022年5月3日(火) 19:54

憲法は施行から75年を迎えました。節目となった憲法記念日。鹿児島県内では改憲派、護憲派がそれぞれ集会を開きました。鹿児島市で開かれた憲法改正を目指す団体の集会には、およそ150人が参加しました。東京の集会在ライブ配信され、岸田総理がビデオメッセージで、自衛隊の明記や、緊急時の政府の権限強化をはじめとした緊急事態条項の創設を含む憲法改正の必要性を訴えました。

（岸田総理）「新型コロナ対応、ウクライナ侵略を受け、緊急事態への関心が高まっています。憲法も時代にそぐわない部分は改正すべき」

集会では最後に、夏の参院選で各党が改憲の必要性を国民や県民に訴えるよう求める声明文が採択されました。

（日本会議鹿児島 高橋辰治事務局長）「（ロシアが）力による現状変更を国際法を無視して行っている現状に、即座に対応できているか、危機を突破するには憲法を改正するしかない」

一方、3日は憲法改正に反対する集会もオンラインで開かれました。

山口県岩国市の元市長の井原勝介さんが講演し、市長時代に浮上した岩国基地へのFCLP移転の経緯などを踏まえ、国の動きについては慎重に考え対応してほしいと訴えました。

（井原勝介さん）「一旦（基地が）できると後戻りできない。（整備）が強化されていく形になるので、議論を尽くして欲しい。皆さんには慎重に考えて欲しいし、将来にわたって悔いのない選択を是非して欲しい」

ウクライナ侵攻などを受けて改憲を求める声も上がる中、集会では、戦争の放棄をうたった憲法9条の精神に立ち返るべきとの声

が聞かれました。

（県護憲フォーラム 平井一臣会長）「ロシアが怖いからと憲法を変えない」というムードに流されるような改憲ではない、地に足の着いた憲法を考える出発点にしたい」

## 憲法どう考える？コロナ禍・ウクライナ侵攻で関心高まる中で…

南日本放送 2022年5月3日(火) 19:52

日本国憲法の施行から75年を迎えた今年、コロナ禍やウクライナ侵攻への国の対応に関心が集まる中で憲法改正に絡む議論が活発化しています。私たちは憲法とどう向き合うべきなのか？改めて考えます。

（記者）「暮らしに大きくかわる憲法について、街の人はどう考えているのでしょうか？」

（40代会社員）「女性の地位が低い時代に作られた規定がけっこう残っているから、時代に合ったものにしてほしい」

（20代会社員）「男女平等。男性が多い職場だが、女性の意見もきちんと反映されているならいいな」

憲法について様々な意見が聞かれた一方で…

（30代主婦）「あまりなじみはないかな。憲法改正にしても、本当の私たち国民の声という感じではないところで議論が進んでいる」

（10代高校）「えっ、考えたことないです」

国の基本的なルールを定めているものの、その存在をやや遠い存在に感じる人も多い憲法。しかし、私たちの暮らしと深くかかわっていると、憲法学が専門の鹿児島大学共通教育センター・渡邊弘准教授は話します。

（渡邊准教授）「（例えば）コロナということになると、一番関係するのは、25条の生存権の規定。ここには『健康で文化的な最低限度の生活が保障される』と書いてあるので、これを確保するために、まずはコロナをきちんと抑え込むためにどのような政策を立てるべきなのかを憲法を基準に考えてほしい」

「一方で生存権は、単に病気を抑え込むだけではなく、経済的な面での生存権も保障されなければならない。29条には『財産権』、22条には『経済活動の自由』も書いてある。それをきちんと確保しながらコロナ対策を打っていく。これが、憲法が示すコロナ対策の指針だと思っている」

施行から75年となった今、憲法改正を巡る議論が活発化しています。与党・自民党が自衛隊の明記や災害時の対応強化としての緊急事態条項創設など4項目の改憲案を掲げ、衆参両院で改憲に前向きないわゆる「改憲勢力」が改憲の発議に必要な3分の2を占めています。

また、今年は国会で憲法審査会がこれまでにないペースで開かれ、憲法改正の手続きを定めた国民投票法などについて議論が交わされています。渡邊准教授は、活発化の背景にロシアによるウクライナ侵攻があると指摘します。

（渡邊准教授）「ロシアによるウクライナ侵攻が起こった。それが日本側に向いてくるという恐怖感は、私も含め多くの人が持ってしまったもやむを得ない。憲法を変えたい、憲法を変えて、外国から攻められる可能性があるのに対して、きちんとした対応を取りたいという願いを持つ人が増えてくる」

ただ、国の在り方を決める重要な問題なだけに、冷静で慎重な議論が必要になるとも話します。

(渡邊准教授)「日本国憲法ははっきりと9条では『戦争はしない』『戦力を持たない』と書いている。戦争をする権限はない、交戦権は日本の国にはないとはっきり書いている。日本国憲法のあり方を第一の指針として、国はさまざまな形で政策を打ち出していかなければいけない」

そして、夏には参院選が控え、有権者が憲法について意思を示す重要な機会となるため、今のうちから憲法について考えておいてほしいと話します。

(渡邊准教授)「選挙は私たちの身近なところで、一番主権者が意思を表明しやすいチャンス。権利であるとともに、示した意思については非常に大きな責任があると思う。ぜひ有権者には憲法そのものに何が書いてあるか、いま一度読んでもらい、そのうえで各候補者の政策と照らし合わせながら考えて、投票に臨んでほしい」

## 憲法は「日本の平和と安定に大きな役割」 玉城知事が談話 / 沖縄

琉球新報 2022/5/3



玉城デニー知事

玉城デニー知事は3日の憲法記念日に当たって談話を出し、日本国憲法が「国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を基本理念として、国民生活の向上やわが国の平和と安定に大きな役割を果たしてきた」とコメントした。

玉城知事は日本復帰から50年の節目となることに触れて「本県に日本国憲法が適用されて50年となる」と述べた。沖縄戦や米施政下の歴史にも言及し「平和と人権の尊さを肌身で感じ、平和で真に豊かな沖縄を次世代に託すことが責務だ」とし、「誰一人取り残すことのない『沖縄らしい優しい社会』を実現することが重要だ」と訴えた。県民には「憲法の理念を十分に理解し、基本的人権を尊重し、人権と自由について考え、平和の創造に貢献していただくことを切に祈念する」と呼びかけた。(塚崎昇平)

## 沖縄の日本国憲法適用から50年 玉城知事「平和で豊かな沖縄を次世代に」

沖縄テレビ 2022年5月3日 火曜 午後0:10

5月3日は憲法記念日です。

玉城知事は「アメリカの施政権下に置かれた歴史を踏まえ平和な沖縄を次の世代に託すことが責務だ」とするコメントを発表しました。

日本国憲法は平和主義や国民主権、基本的人権の尊重の三原則の理念に基づき1947年に施行され今年で75年となります。戦後、アメリカの施政権下に置かれた沖縄は「平和憲法の下へ帰る」というスローガンで1972年に本土復帰を果たし日本国憲法が適用されて今年で50年となりました。

玉城知事は「県民は苦難の歴史を通して平和と人権の尊さを肌身

で感じており平和で豊かな沖縄を次世代に託すことが私たちの責務」とコメントしています。

## 地位協定こそ改定 柳広司さん、改憲を問題視 武力衝突に警鐘 沖縄憲法制定を

沖縄タイムス 2022年5月4日 05:30

県憲法普及協議会などが主催した憲法講演会では、小説家の柳広司さん(54)＝神奈川県＝が「沖縄からの風－南風に乗るのは誰か?」と題し講演した。ロシアのウクライナ侵攻に絡めた改憲の動きを問題視し「変えるなら日米安保条約と地位協定が先だ」と指摘した。

残り 554 文字 (全文: 674 文字)

## 今こそ平和主義を 那覇で憲法講演会 小説家・柳さんが講演

琉球新報 2022年5月4日 06:40



沖縄と憲法をテーマに語る小説家の柳広司さん＝3日、那覇文化芸術劇場なはーと(大城直也撮影)

憲法記念日の3日、沖縄県憲法普及協議会と沖縄人権協会、日本科学者会議沖縄支部は、那覇市で「2022憲法講演会」を開いた。沖縄の日本復帰から50年。県内では自衛隊の南西諸島配備計画が進み、名護市辺野古の新基地建設も強行されている。オンラインも含め参加した約500人が現行憲法が掲げる平和主義の堅持を誓った。

憲法講演会では、戦後の沖縄を舞台とした小説「南風(まぜ)に乗る」を週刊ポストで連載中の小説家の柳広司さん(54)が講師を務めた。憲法が危機にひんするとも言える状況で「沖縄には平和への強い希望がある」と強調。小説家ならではの視点で、沖縄と憲法への提言を披露した。

高校生が主体となって平和学習をするサークル「沖縄高校生平和ゼミナール」の活動報告や、「沖縄と私～復帰50年、現在、未来」と題したトーク企画も行われた。

ロシアによるウクライナ侵攻を受け、「非核三原則」の見直しを求める声の一部の政治家から上がるなど、平和主義が改めて問われている。講演会の結びには「日本国憲法は徹底した平和主義を希求している。ウクライナ侵略を目にし、平和の実現にはこの道しかないのだとの思いを改めて強くした」などとする憲法宣言が読み上げられた。(前森智香子)

## 民主主義の変容に危機感 作家・柳広司さんが憲法講演会で講演

きょう午後1時半から 那覇市「なはーと」

琉球新報 2022年5月3日 12:02



沖縄への思いを語る小説家の柳広司さん＝2日午後、那覇市の沖縄合同法律事務所

沖縄県憲法普及協議会などが主催する憲法講演会「沖縄からの風—南風に乗るのは誰か?—」が憲法記念日の3日午後1時半から、那覇市の那覇文化芸術劇場なは一とで開かれる。講師として招かれた小説家の柳広司さん(54)は、戦後の沖縄を舞台とした小説「南風(ませ)に乗る」を週刊ポストで連載中だ。沖縄への思いなどを聞いた。(聞き手 前森智香子)

—沖縄とのつながりは、

「沖縄の復帰は4歳の時で直接の記憶はない。1995年の少女暴行事件で強く意識した。その時に沖縄を巡る状況は変わると思ったが変わらず、ずっと残念な思いを持っていた。2019年の辺野古(米軍基地)建設についての県民投票で、政府に結果を突きつけた。それを平然と無視するのは、自分が知っている民主主義ではないのではと思った」

—辺野古のゲート前で座り込みをしたことも。

「小説家は何事も自分で経験しないといけない。機動隊員に両脇を抱えられて、足をブロックされた。一緒に行った妻には『今の日本はどういうことなのか見ておいて』と、道路の反対側にいてももらった」

—講演依頼を受けた理由は、

「2001年にデビューして20年余りだが、講演依頼は全て断ってきた。今回が初めての講演になる。19年の県民投票後、有志を募り、辺野古の工事中断と対話を求める声明を発表した。このままスルーしたら、自分が信じている戦後民主主義は別の形に変容してしまうと思った。今回は逃げられないという思いがあった」

—「南風に乗る」では、瀬長亀次郎や山之口獺の視点で戦後の沖縄をリアルに描いている。

「徹底的に資料を読んだ。登場人物に愛情を注ぎ、実際の人物よりもリアルな人物として描きたい。まちまーいにも参加し、汗だくになって街を歩いて回った」

「沖縄の復帰運動は、日の丸の下ではなく、平和憲法の下への復帰として行われた」

—タイトルに込めた思いは、

「週刊誌で小説の企画を出した時、編集者に読み方を問われた。あえて『はえ』と読ませていない。なぜ『ませ』と読ませているのか。その謎は講演で明かしたい」

## 憲法軽視に危機感 平和求め沖縄から宣言 武装強化に疑問 活発な議論重要 那覇で憲法講演会

沖縄タイムス 2022年5月4日 05:30 有料

ロシアのウクライナ侵攻で世界平和が脅かされる今、戦争放棄を掲げる憲法について沖縄から考えたい。憲法記念日の3日、県憲法普及協議会などが主催する憲法講演会が那覇市内であった。

残り718文字(全文:803文字)

## 「戦争をすぐにやめることが大事」 恒久平和の碑を磨く 那覇市 憲法記念日前に有志

沖縄タイムス 2022年5月2日 10:14

3日の憲法記念日を前に、おきなわ住民自治研究所理事長の真栄里泰山さん(77)ら有志15人は1日、那覇市の与儀公園に

ある憲法9条を刻んだ「恒久平和の碑」を清め、平和を願った。



恒久平和の碑を清掃する有志ら=1日、那覇市の与儀公園

有志らは、タオルで碑を磨き、周辺の落ち葉などを拾った。清掃後は日本音楽協議会県支部のメンバーが平和の歌を披露したほか、参加者全員で憲法前文や9条を読み上げた。

清掃は2年前から続けている。真栄里さんは「ロシアのウクライナ侵攻で大勢が犠牲になっている。戦争をすぐにやめることが大事だ」と強調。今こそ憲法や9条の精神を訴えていく必要があると説いた。

那覇市内の職場の同僚と参加した大嶺和恵さん(69)は「身近に恒久平和の碑があることを、多くの人に伝えたい」と話した。

碑は1985年、全国で初めて「平和都市なは」のシンボルとして当時の親泊康晴市長が建立した。

(社会部・島袋晋作)

## 沖縄の本土復帰と平和憲法について考える講演会

沖縄テレビOTV2022年5月3日 火曜 午後6:50

憲法記念日にあわせて平和について考える講演会が那覇市で開かれました。

講演会の講師に招かれたのは週刊誌で戦後の沖縄を題材にした小説を連載している小説家の柳広司さんです。

柳さんは平和憲法の下へ帰ることを願った本土復帰運動や、復帰から50年を経てなお基地が集中する沖縄の現状を踏まえ次のように述べました。

▽柳広司さん

「日本にある平和憲法を使えば沖縄の米軍基地を追い出せるのではないかと。ところが沖縄は色んな意味で期待を裏切られている。憲法を変えようという話になるのではなく日米安保と地位協定(内容を変えること)が先だと思うのですが、なかなかそうならない」

柳さんはロシアによるウクライナ侵攻など国際情勢の緊張が高まる今だからこそ、日本が戦争に巻き込まれないためにどうあるべきか考えを深めてほしいと訴えました。

## 憲法制定から75年「護憲派」「改憲派」が講演会

琉球放送 2022年5月3日(火) 18:04

「憲法記念日」の3日、県内では護憲派と改憲派による集会が開かれそれぞれの考えを訴えました。

日本国憲法が施行されて3日で75年、沖縄に憲法が適用されるようになってこととして50年を迎えます。

那覇市では護憲派が主催する講演会が開かれ、現在復帰前の沖縄を舞台にした作品を執筆している小説家の柳広司さんが登壇しました。

小説家・柳広司さん

「沖縄には平和を望む強い希望があると。だからこそ使えるものになるんじゃないか。沖縄憲法を使えば、沖縄から軍事基地を追

い出す手段になるんじゃないのかと」

柳さんはこのように述べ「政府が平和憲法を捨てる状況になったとすれば沖縄が拾って沖縄憲法にするのはどうか」と持論を語りました。

また、柳さんはカンカラ三線を引き合いに、戦後の沖縄で音楽を愛する人々が収容所にあったもので三線を仕立てたように、沖縄戦を経て平和を希求する沖縄だからこそ取り組めることの可能性を提示しました。

### 改憲、ウクライナ侵攻に無言の抗議 演劇関係者 60 人が新宿で 東京新聞 2022 年 5 月 4 日 07 時 15 分



憲法記念日の三日、演劇関係者六十人が

J R 新宿駅南口で、改憲の動きとロシアのウクライナ侵攻に反対するプラカードを掲げ、「サイレント・スタンディング」を行った＝写真。

サイレント・スタンディングは街頭に無言で立つ抗議活動。さまざまな劇団の俳優、演出家、製作スタッフらが参加する「政権の暴走を許さない演劇人・舞台表現者の会」が、これまでも各地で行ってきた。

この日は「改憲より活憲」「NO WAR」「戦争を止めるのは芸術です」などとメッセージを書いたプラカードを掲げ、連休を楽しむ人たちにぎわう駅前前で約一時間、静かに立ち続けた。

会の福島明夫さん（青年劇場）は「軍備拡大競争では戦争は止められないことがウクライナ侵攻で明らかになった。今こそ冷静になって平和を考えるべき時。憲法九条のおかげで日本は一度も外国に行つて人を殺していない。そのことを日本の誇りにしたい」と話していた。（宮崎美紀子）

### 戦争、政治の劣化、行き着く先は…造形作家が立体アートで警鐘 鳴らす 3 日から東京都美術館で展示

東京新聞 2022 年 5 月 3 日 06 時 00 分

「戦争で物事を解決しようとする政治家。思考停止した愚かさ」に触発された。東京都在住の造形作家・中垣克久さん（78）が、ウクライナの戦禍や日本国内の軍備増強論を踏まえ、地獄へ連行される人々を表現した新作の立体アートを完成させた。目隠しをされ鎖でつながれた人々の姿は、私たちではないのか。政治の劣化と暴力、戦争の行き着く先に、作品は強く警鐘を鳴らす。（宇佐見昭彦）



目隠しされ連行される群衆が戦争、抑圧、死の恐怖を感じさせる中垣克久さんの新作「時代（とき）の肖像—無明・滅亡の黙示録」＝神奈川県内のアトリエで

◆人間が善悪判断できなくなっている

3 日の憲法記念日に東京都美術館（台東区上野公園）で始まる

展示を控え、神奈川県内の中垣さんのアトリエで新作を見た。

ぼろ布をまとい、首に縄をかけられ、鎖で引っ張られていくつむき加減の人の群れ。ウクライナでの虐殺の犠牲者の映像が脳裏に残るせいか、立っているのに遺体のようにも映る。

作品名は「時代の肖像—無明・滅亡の黙示録」。無明とは、明るさが足りず真実や真理が見えない状態、無知を指す仏教用語だ。

「人間が善悪の弁別をできなくなっている。話し合いで解決しようとせず、人の領土へ踏み込む。無知のなせる業だ」。新作に込めた批判は、ロシアのウクライナ侵攻のみならず、私たちの住む国の姿を問う。「日本の政治で無知を一番感じさせたのが安倍政権だ」と中垣さんは言う。

安倍晋三首相（当時）主催の「桜を見る会」に首相の地元後援者が多数招かれた。「森友学園」問題を巡っては、財務省の決裁文書改ざんを強要され、近畿財務局の元職員赤木俊夫さん＝当時（54）＝が自殺に追い込まれるという痛ましい犠牲を生んだ。

「善悪の判断を失い、損得で動く。（安倍氏）当人は今も自民党の最大派閥の領うし袖。無明の世界です」。知のない暗愚な政治が、人類を滅亡に導く。その危惧が新作を生んだ。

「戦争や軍備で解決しようとする思考停止は、プーチン政権だけでなく、安倍元首相らも一緒。ウクライナに核兵器があればどうだったか、日本も核共有の議論を、などと言っていることもおかしい」

◆表現の封殺と闘い続ける



中垣克久さん

中垣さんは 2014 年、憲法改悪への危機感を表現した別の作品「時代の肖像—絶滅危惧種」で、作品中の紙片に書かれた「憲法九条を守り」「靖国神社参拝の愚」などの文言が「政治的だ」と問題視され、都美術館から作品の撤去や手直しを求められた。

同作品は「あいちトリエンナーレ 2019」の企画展「表現の不自由展・その後」にも出展されたが、企画展へのテロ予告や脅迫が相次ぐ中、わずか 3 日で展示中止に追い込まれた。

表現の封殺との闘いでもある中垣さんの制作活動。「この新作も、その続き。安倍政権下で起きたこと、いまプーチン政権がしていることも滅亡への道だ。それをずっと問い続けている」。自由な政治批判、反戦の声すら封じられ、逆らうと拘束・連行されるような世の姿は、新作の捕らわれた人の群れと重なる。

なかぎき・かつひさ 1944 年、岐阜県高山市で生まれ、古川町（現飛騨市）で育つ。東京芸術大大学院修了。文化女子大（現文化学園大）教授を経て、人間の尊厳、震災、コロナ禍などをテーマに表現活動が続ける。

※ ※ ※

展示は 3～10 日午前 9 時半～午後 5 時半（3 日は午後 2 時か

ら、10日は午後1時半まで)、都美術館のギャラリーAで。中垣さんが主宰する「現代造形表現作家フォーラム」のメンバーら計26人の作品が並ぶ。入場無料。

## きょう憲法記念日 10代が考える平和 明治学院大・国際学部生に聞く

東京新聞 2022年5月3日 07時23分

ロシアによるウクライナ侵攻など国際情勢が変化する中、平和や戦争を巡る議論が起こっている。若い世代はどう考えているのか。三日の憲法記念日に合わせ、横浜市戸塚区の明治学院大国際学部で「平和学」を学ぶ二年生の三人に、現況の受け止め方や平和主義を掲げる日本国憲法への考えを聞いた。(吉岡潤)

### ◆武力侵攻「衝撃だった」



安田さん

「衝撃だった」と、安田大地(たいち)さん(19)と本間のどかさん(19)は口をそろえる。ロシアによる武力侵攻。安田さんは「小さい頃から平和教育を受けてきて、先生たちも明言していたわけではないけれど、戦争はもう起きないというニュアンスだった気がする。それが起こってしまった」と話す。

核兵器廃絶を目指す活動に携わる本間さんは、核の使用を示唆した同国のプーチン大統領の発言に「危機感を覚えた」と明かす。大量虐殺も伝えられ、「なぜ止められないのか。国連に対する不信感や無力感を同時に抱いた」。水上建(たける)さん(19)は日本国内の反応が気になった。「核シェアリング(共有)や敵基地攻撃能力の議論が出てきたのが怖いなど」



本間さん

戦争の放棄をうたう憲法九条はどう映るのか。水上さんは「平和を構築するための先進的なシステムではないか」と表現する。「同じ軍事力を持てば戦争は起らないという抑止論の理屈は、逆に侵攻する可能性もあるとなりがねない。九条を世界に発信することで平和につながるのでは」。本間さんは被爆者の話を聞く度に「戦争は繰り返してはいけない」と強く意識するようになった。「九条は守り続けなければいけない」と言葉を強める。

本間さんは「世界の一万三千発の核がいつ使われるか分からない状況は平和ではない」と言い、学んでいる平和学を「自分が生きたいと思う世界に変えていくためのツール」と捉える。安田さんは「自分が生きづらさを感じるものに対抗する手段」と定義。「授業では平和は暴力がない状態と習う。今の僕にとって、暴力は貧困やいじめとか、それがあつたら生きていけないもの。そこからどう逃げるか、乗り越えるか、生きやすくするか」と語る。



水上さん

三人は自分たちができていることに思いを巡らす。本間さんは核兵

器廃絶の活動を始める前、「ハードルが高い」と感じていた。だが、国会議員に会って働き掛ける体験を通じ、「少しは影響を与えられるかな」と気持ちに変化したという。

安田さんは「まず自分で考えること、そして意見を持つこと。いろいろな団体と意見を共有したり、自分で団体を立ち上げたり、SNSなどのツールで発信したりもできる」と話す。

水上さんは新基地建設に揺れる沖縄・辺野古を訪れたり、入国管理センターに収容された外国人の証言を集めたドキュメンタリー映画を見たりしたといい、「とりあえず知ること」と答えた。「ひどい仕打ちを受けている人たち、抑圧されている人たちがいる。知ることがこれからの自分につながっていく」

### ◆明治学院大・阿部浩己教授 非暴力的な発想を広げよう



「憲法について知り、考えてほしい」と語る阿部教授  
＝横浜市戸塚区で

四月から明治学院大国際平和研究所の所長に就いた阿部浩己(こうき)教授(63)は、緊迫する国際情勢を背景に「日本国憲法の非暴力的な理念を、今後も追求していくのか。重要な局面に入ってきている」と指摘する。

国際法や平和研究が専門。講義で教える「平和学」では、平和の対極の概念は「暴力」になる。「平和を実現するためには、手段も含めて非暴力的であることが平和学の柱。それは日本国憲法の考え方に通じる」。抑止力として、例えば核兵器を備えることは暴力的手段となる。「暴力的手段を用いると、平和の実現そのものが脅かされるというパラドックス(逆説)に陥る」

日本国憲法は前文で「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し」「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して」とうたう。阿部教授はこの理念に着目する。「戦争を起こさないために必要なのは、外交によって信頼関係を築く努力を続けることだ」。そして、非暴力的な発想を広げるために、国内で人権を保障し、差別をなくす重要性を唱える。

改憲を目指す動きがある。「議論の前提として、憲法をよく知ってほしい。そしてどうすべきか、人任せにせず、自分のこととして考えてほしい」と話す。(吉岡潤)

## 「土地利用規制法」9月に全面施行 住民運動、萎縮の危険性も きょう憲法記念日 尾池弁護士に問題点を聞く

東京新聞 2022年5月3日 07時39分



今年9月に全面施行される土地利用規制法について解説する尾池誠司弁護士＝かすみがうら市で

「土地利用規制法」が今年九月に全面施行され、自衛隊基地や原子力施設周辺での土地利用の規制が本格的に始まる。ただ、法の規定にはあいまいな部分が多く、「財産権、プライバシー、思想・良心の自由といった憲法上の権利を侵害しかねない」と危ぶむ声が上がっている。茨城県内にも該当する施設は複数ある。三

日の憲法記念日に向け、県弁護士会所属の尾池誠司弁護士にこの法律の問題点を聞いた。(聞き手・保坂千裕)

―何のための法律か

一部では立法事実(法律の必要性)がないと言われている。個人的には、内閣総理大臣に権限を与えているだけで、立法の名にも値しないと思っている。二〇一一年に、自民党の高市早苗衆院議員らが「中国資本に重要な土地を買われたら危ない」などと言って動きだしたとされる。だが、外国資本に対しては制限していない。国際的な貿易のルールに違反するからだ。結局、自国民を規制するだけの法律になった。

―県内ではどの施設が対象となるか

「自衛隊の施設」と明記されているので、航空自衛隊百里基地(小美玉市)や陸上自衛隊古河駐屯地(古河市)は該当する。さらに問題なのは生活関連施設。「国民生活に関連を有する施設で、機能が阻害された場合に国民の生命に重大な被害が生じるおそれがある」と定めており、日本原子力発電東海第二原発(東海村)は入るだろう。だが、それにとどまらない。大きな工場や港、何でも対象になる可能性がある。

―憲法に照らし合わせると何が問題か

いろいろある。調査対象となる人は、憲法一三条で保障されるプライバシーを侵害されかねない。その調査対象は明記されていない。特定の宗教や政党に所属する人が対象になるなら、一九条の思想・良心の自由に反する。土地の利用制限や所有権移転などの事前届け出は、二九条の財産権を侵害する危険もある。

―デモなど市民運動の障害になりうるか

警察の公安や自衛隊の諜報(ちょうほう)部は以前から調査していたが、この法律はあえて「調査する」と明確に言っている。「それならやめようか」と正当な政治活動や住民運動まで萎縮させる危険性はあるだろう。何を目的にこの法律が作られたのかは分からないが、本音はおそらくスパイ行為の防止だろう。秘密主義の法律。戦前の内務省のような発想が少し復活したように感じられる。どう運用されるのか注視していきたい。



東海第二原発。手前には住宅地が広がる＝東海村で、本社へ「おおづる」から

<土地利用規制法> 自衛隊基地や原発など安全保障上重要な施設の周囲約1キロや国境離島を注視区域に指定し、土地などの利用状況の調査や、妨害行為への中止勧告・命令を可能にする。特に重要な施設や離島は特別注視区域に指定し、土地売買に事前届け出を義務付ける。命令に従わなかったり、届け出を怠ったりした場合の刑事罰も定めている。

「阿佐ヶ谷姉妹」ならぬ「四谷姉妹」が話題 弁護士2人組が漫才で憲法解説、わかりやすく楽しく

東京新聞 2022年5月4日 06時00分

労働や人権問題に取り組む2人の弁護士が、お笑い芸人「阿佐ヶ谷姉妹」にそっくりな衣装を着て、憲法を漫才で紹介する活動を続けている。面白おかしく憲法を学べると評判になり、都内の勉強会に招かれているほか、YouTubeに公開した動画が話題

に。忙しい合間に漫才を続けるのは「生活していて困ったら、憲法が私たちの権利を守ってくれる。それを知ってほしい」との願いからだ。(大野暢子)



憲法を漫才で面白おかしく紹介

している弁護士の岸松江氏(左)と青龍美和子氏

◆幅広い層に思い伝えたい

コンビ名は「四谷姉妹」。2人が勤務する法律事務所が東京都新宿区四谷にあることにちなんだ。おそろいのおかつぱ頭に眼鏡、ピンク色のドレスが目を引く。難しい法律用語を聞くと、つい食べ物の名前だと勘違いしてしまうのは姉役の岸松江弁護士、ツッコミ役は妹を演じる青龍美和子弁護士だ。

あるコント作品は、姉妹で互いの願いを語り合う場面から始まる。「戦争はだめね、平和じゃなきゃ(憲法9条の戦争放棄)」「へー、いーわね。私は仕事を頑張りたい(27条の勤労権)。漫才も発表したい(21条の表現の自由)」「そういえば、この願いつて全部憲法に書いてある」「憲法ってすごいよね!」と進んでいく。

憲法そのものについては「日本で一番大事な決まりで、実現すれば、みんなが幸せになれるもの」と紹介する。

長年の弁護士活動を通じて、1人でも多くの人に憲法を知ってもらおう大切さを痛感してきた。「堅苦しい話をして、私たちの思いが幅広い層に届かない」(岸氏)と考え、漫才に行き着いた。コンビを結成したのは2018年冬だ。

◆「一人一人の権利守ってくれる」

新型コロナウイルス禍では、全国で多くの人が失業や収入減に直面。仕事をしばらく休むように言われた人も多く、2人のもとには相談が相次いだ。2人は会社の都合で休みになった場合、休業手当をもらえること、会社がその手続きをしない場合は、労働組合への加入や労働審判などの法的手続きをするよう助言している。憲法25条で生存権が保障されているからだ。



青龍氏は、東京電力福島第一原発事故の避難者らが政府や東電に損害賠償を請求した集団訴訟の原告弁護団に参加している。被災地に通う中で「故郷を奪われた人たちの苦しみや健康不安は続いている」と何度も感じた。そして、被災者に負担を強いている政府と東電は「個人を尊重する憲法13条に違反した行為をしている」と指摘する。

DVや会社などでのハラスメント問題を多く手掛ける岸氏は

「憲法は家族生活における両性の平等や個人の尊重をうたっており、DVやハラスメントは許されない」。憲法が私たち一人一人の権利を守っていることを知れば「問題が起きた時、自分は悪くないと気づき、問題解決に向けて行動しやすくなる」と話す。

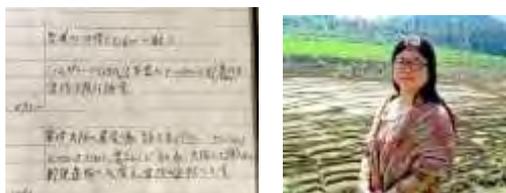
### 突然消えた日の丸、母が激怒したわけ…そして私は憲法学者になった

朝日新聞デジタル大坪実佳子 2022年5月3日 8時30分



グループホームに行くたびに母・忠子さんとツーショットを撮った清末さん(右) =2019年、室蘭市、本人提供

朝日新聞デジタル大坪実佳子 2022年5月3日 8時30分



「お願い、日の丸を買って。どうしても欲しいの」  
 清末愛砂さん(50)は40年前、当時暮らしていた山口県内のデパートで母親に懇願した。小学校2年生だった。  
 祝日があるたび、学校で教諭から「家に日の丸を掲げている人は手を挙げなさい」と言われたからだ。举手した児童に、教諭はただ、「ふーん」と反応した。何を言うわけでもなかったが、掲げないことが「悪」と言われているように感じられた。  
 最初は何人もが手を挙げたのに、次第に少なくなった。数カ月後、自分ともう2人だけになった。事情を知った母は、しぶしぶ日の丸を買ってくれた。  
 安心した。「これで堂々としていられる」  
 祝日になると、倉庫に駆け込んで日の丸を引っ張り出し、家の前に掲げた。  
 ところが2回しか飾らないまま、日の丸はある日突然、倉庫から消えた。  
 「日の丸がないんだけど……」  
 母は、強い口調で怒りをあらわにした。  
 「そんなの、学校が調べることがおかしいの！」  
 国旗掲揚、君が代斉唱、運動会で「かしら、右」と言いながら校長先生の前を行進すること——。母はことあるごとに、連絡帳

に「管理教育はやめて下さい」「学校に心を縛り付けるのはやめて下さい」と書いた。テストの点数や通知表には全く興味がないのに、思想を誘導するような行為には敏感だった。

一体、なぜ。  
 母の根っこにあった悲しみを…  
 残り1458文字

### 参院選勝利前提に改憲目指す自民 議論加速に警戒感を強める立民

東京新聞 2022年5月2日 06時00分

自民党は夏の参院選勝利を前提に、2025年までの3年間で改憲の実現を目指す構えだ。野党第一党の立憲民主党は改憲に慎重な立場で、自民ペースで議論が加速することに警戒感を強める。



自民は連立与党の公明党に加え、野党の日本維新の会や国民民主党を改憲に協力的な勢力と位置付ける。参院選で引き続き3分の2以上を確保した上で、来年にかけて両院の憲法審査会で議論を進め「24年の改憲発議」「25年の国民投票実施」にこぎ着けるシナリオがささやかれる。



改憲内容は、党が掲げる4項目のうち緊急事態条項の創設を重視。その中でも衆院憲法審査会の議論で維新、公明、国民の各党も必要性を認めている緊急時の国会議員任期の延長は合意を得やすいとみている。

共産党とれいわ新選組、社民党は改憲に反対している。(佐藤裕介)

### 施行75年 どうなる改憲論議 自民「参院選後3年間に発議」立民「権力暴走防ぐため憲法で縛る」 両党責任者に聞く

東京新聞 2022年5月2日 06時00分

憲法は3日で施行から75年を迎える。衆参両院では、改憲論議に前向きな勢力が発議に必要な3分の2以上を占めていることもあり、今国会では憲法審査会が例年より多く開かれ、国民投票の広告規制や緊急事態条項などを議論している。憲法の在り方や改憲論議の行方について自民、立憲民主両党の責任者に聞いた。(佐藤裕介)



自民党憲法改正実現本部長の古屋圭司衆院議員

◆憲法を世界標準に／自民党・古屋圭司憲法改正実現本部長  
—自民党の立場は、

「自民党は立党時の綱領にも自主憲法制定をはっきりとうたっている。現行憲法は日本の主権がないときにつくられた。主権を回復したのだから、憲法を自分たちの国でつくるというのはグローバルスタンダード（世界標準）だ」

—党として9条への自衛隊明記、緊急事態条項の創設を打ち出している。

「（戦力不保持を定めた9条）2項は非常に解釈しづらい。世界の憲法にはほとんどない。自国の主権と国民を守るための武力行使は容認されている。主権を守る手段として自衛隊を置くことを憲法に書く。主権がない時代に制定されたので国防規定が一切ない。（緊急事態条項に関しては）世界のほとんどの国の憲法に条項がある。世界標準に合わせようと言っている」

—岸田文雄首相は夏の参院選のテーマの一つに改憲を掲げた。

「世論がどんどん熟成されてくれば当然、参院選のテーマの一つになってくるだろう。ただ、私は日本維新の会が言うような選挙に合わせた国民投票は絶対にすべきでないと考える。もっと

静謐な環境の中でやるべきだ」

—静謐な環境とは、

「参院選後は3年間（衆院解散がなければ）国政レベルの選挙がない。その間に発議していく。3年という大きな視野の中でやっていくのが一番いい」

—国民投票も行うか。

「そうだ。3年以内に」

—改憲に前向きな勢力の間で優先順位が高まっている緊急事態条項に絞るか。

「どうなるかはわからない。みんなで議論して、各党の最大公約数で決まっていく話だ」



立憲民主党憲法調査会長の中川正春衆院議員

◆改憲ありきなら国民分断／立憲民主党・中川正春憲法調査会長  
—立民の基本姿勢は、

「私たちは日本国憲法を肯定している。自主憲法制定の議論にはくみしない。憲法の平和主義や民主主義、基本的人権はこれからも大切を守る。立憲主義に基づいて憲法を論議する『論憲』の立場から、為政者の権力の乱用や暴走を防ぐために憲法で縛っていく考え方が大切だ」

「自民党のように最初から改憲ありきで決め付ければ、国民の憲法に対する考え方は分断されてしまう。まずは、改憲の是非を

問う国民投票時のテレビ・ラジオCMやインターネット広告の規制を巡る議論が必要だ。公平性が担保されない中で国民投票はできない」

—自民党は9条への自衛隊明記を掲げる。

「現実的な安全保障の議論は必要だが、ウクライナ情勢に便乗して一気に9条の議論につなげてはいけない。9条が重しになり、国の平和が保たれてきたことも事実。国民と一緒に考えていくプロセスが必要だ。自衛隊明記は（平和主義を規定する）一項の空文化につながる恐れがある」

—憲法に緊急事態条項を創設することへの考えは、

「戦争にしても大規模災害でも、それぞれ法律の中で首相に権限を持たせる仕組みが既にある。法律で対応できることをあえて憲法に規定しなくてもいい。緊急事態時の国会議員の任期延長の課題についても（憲法に位置づけられた参院の）緊急集会や、繰り延べ投票で対応可能だ」

—参院選後、改憲勢力が性急に動く可能性もある。

「それをやれば、逆に改憲はできなくなる。国民の中にそれほどのコンセンサスがあるかといえば、そうではないのではないか」

### 立憲岩手と階猛氏、別々に街頭演説 政治資金巡り係争中

毎日新聞 2022/5/4 08:29（最終更新 5/4 08:29）



参院選の立候補予定者の応援に駆け

つけた達増拓也知事（右から2人目）ら＝岩手県盛岡市のJR盛岡駅前  
2022年5月3日午後0時57分、湯浅聖一撮影

夏の参院選を控え、立憲民主党岩手県連は3日、JR盛岡駅前  
で街頭演説会を開き、達増拓也知事や県議らが立候補予定者への  
支援を訴えた。直後には同党所属で、政治資金を巡る問題で県連  
と係争中の階猛衆院議員（岩手1区）が盛岡市議らと演説。別々  
に演説する異例の対応で、両者の溝の深さを示した。

憲法記念日とあって、県連の演説会では達増知事が、ロシアの  
ウクライナ侵攻に乗じて「敵基地攻撃能力」の保有を訴える自民  
党の改憲勢力を批判。「岩手から日本を変えなくてはならない」  
と立候補予定者を応援した。

一方、階氏はインターネット上の中傷を抑止するための「侮辱  
罪」厳罰化の課題を指摘した。参院選には一切触れなかった。

階氏は2019年2月、総支部長を務めていた旧国民民主党県連  
1区総支部の口座に県連の資金4000万円を移し、うち3000万  
円を自らが代表を務める政治団体に送金。立憲県連が「権力の乱  
用だ」として20年に盛岡地裁へ提訴した。階氏は「県連常任幹  
事会で承認を得た」と主張し、地裁の和解提案に応じていない。

【湯浅聖一】

### 敵基地攻撃の本質は「先制攻撃」 専守防衛の堅持を 憲法施行75年

朝日新聞デジタル聞き手・北沢祐生 2022年5月3日 10時30分



「憲法に基づく外交、国際問題への姿勢を堅持しなければ」と話す新潟大名誉教授の成嶋隆さん=新潟市

ロシアのウクライナへの軍事侵攻は終わりが見えないなか、3日、日本国憲法は施行から75年を迎える。政治の場で「敵基地攻撃」「核共有」などの言葉が飛び交ういまこそ、平和主義を掲げる憲法の価値を共有することが大切ではないか。憲法・教育法学が専門の新潟大名誉教授、成嶋隆さん(74)に聞いた。

——成嶋さんら80人超の憲法研究者が連名で3月、ロシアの軍事侵攻に抗議する声明を出しています。「人類が『欠乏からの自由』と『恐怖からの自由』を享受し、平和のうちに生存するために必要な、地域と国家と社会と環境とが、いま深刻なダメージをうけている」と。

「事態はさらに深刻化していますが、加えて、これに乗じるように、自党内から『敵基地攻撃能力』や防衛費の大幅増などが主張されてきていることを懸念しています」

——党安全保障調査会が4月にまとめ、首相に提出した提言案では敵のミサイル発射拠点をたたく「敵基地攻撃能力」を「反撃能力」と改称し、これを保有するとしている。現在の対GDP(国内総生産)比で約1%の防衛費を、2%以上を念頭に「5年以内に必要な予算水準の達成を目指す」としました。

「従来のミサイル防衛システムが破綻(はたん)していることから、攻撃は最大の防御とばかりに唱えられたのが『敵基地攻撃能力』論。だが、発射の兆候を感知して相手の発射拠点をたたくという戦法だから、本質は先制攻撃だ。『反撃能力』と言い換えても何ら本質は変わらない。攻撃対象を『指揮統制機能等も含む』と拡大したことも論外だ」

「これは、相手の中枢である首都や人口密集地が攻撃対象となり得るわけで、相手からすれば完全な武力行使。ウクライナのようによく多くの市民が巻き込まれる可能性もある。何よりも憲法9条から導かれている『専守防衛』という原則からの逸脱は許されなないということです」

「侵略戦争を放棄し、戦力は持たないとする9条のもとで、先制攻撃は絶対にできない。『専守防衛』は、憲法が要請する最低限のラインで、この一線だけは譲れない。だが、安倍政権下での集団的自衛権の行使を容認した閣議決定や、その後の安全保障関連法制定という『違憲立法』で、逸脱は続いているのが現状だ」——今の世界情勢から、憲法や9条に対する攻勢が強まるのでしょうか。

「ウクライナの現状を見て、9条があっても侵攻は防げないと、9条無用論を唱える論調が強まっています。しかし、かつての侵略戦争の反省からいまの日本国憲法があり、憲法の要請である『専守防衛』原則を堅持してきたことで平和国家のブランドを獲得してきた」

「この日本の平和主義に不信をもたらし、軍事的緊張を高めるようなことは、決してしてはならない。前文で『名誉ある地位を占めたい』とうたう憲法が求める、日本が取るべき立場とは何なのかをいま一度、考える必要があるのではないのでしょうか」(聞

き手・北沢祐生)



なるしま・たかし 新潟大・獨協大法学部教授、日本教育法学会会長などを歴任。現在、新潟県憲法会議議長を務める。著書(共著)に『教科書裁判と憲法学』『教育法学と子どもの人権』など。新潟市在住。

## ウクライナ侵攻、平和憲法は岐路? 憲法学者の清水潤さんに聞いた

朝日新聞デジタル聞き手・中村尚徳 2022年5月3日 10時30分



白鷗大の清水潤准教授=2022年4月27日

午後2時46分、栃木県小山市駅東通り2丁目、中村尚徳撮影

【栃木】ロシアのウクライナ侵攻後、日本国内で軍備増強や改憲を求める声が強まっている。3日に施行75年を迎える「平和憲法」は岐路にあるのか。どう向き合えばいいか。白鷗大法学部の清水潤准教授(39)=憲法学=に尋ねた。

——侵攻をどう受け止めましたか。

第1次大戦後、国際社会は侵略戦争を違法化してきた。国連安全保障理事会の常任理事国・ロシアはそうした努力を物ともせず、確立された国際法を公然と破った。21世紀でも起こり得る事態にどう対処すべきか、現実味のある問題として考えざるを得ない。

——日本では、米国の核兵器を国内に配備する「核共有」や、敵の攻撃拠点をたたく「敵基地攻撃能力(反撃能力)」の保有も論じられています。

ウクライナ危機に便乗している、と言われても仕方ない面がある。逆に、それが不安定化を招き、武力攻撃を受ける誘因になるとの見方もある。本当に効果があるのか、どれくらい機能するのか、詳細な知識と専門的な予測を踏まえた議論が必要だろう。国民的合意のないまま、冷静さを欠いた状態で、大きな政策転換をやるべきではない。

——憲法上の問題はどのように見ますか。

従来の政府解釈では、いずれも持つこと自体、ただちに違憲にはならない。だが「自衛隊違憲論」に立てば当然違憲となり、「自衛隊合憲論」を採っても「自衛のための必要最小限の実力」といえるか疑問はある。憲法9条から派生した「専守防衛」や「非核三原則」という政策を転換することが望ましいのか、平和主義国家として賢明な選択かという問題もある。

——日本はウクライナに防弾チョッキを送りましたが、武器供与に当たるのではとの指摘もあります。

仮に「自衛隊違憲論」を採っても、兵器には当たらず違憲にはならないだろう。ただ、ロシアから「武器に当たる」と言われてもおおかしくなく、ウクライナの戦争遂行を支えるのは間違いない。政治権力を抑制、制限しようとする立憲主義的な価値論や、憲法政策論の観点から可否が論じられても良かったのに、国会での議論もなく決まったことは「非立憲的」だったかもしれない。

——自民党は改憲4項目で9条への自衛隊明記案を打ち出しており、侵攻後、安倍晋三元首相らは早期実現を訴えています。

狙いは自衛隊の法的正当性を高めることだが、確実に言えるのは、自衛隊違憲論の根拠がなくなることだ。ある種の後ろめたさを取り除かれ、違憲・合憲論のパワーバランスが崩れる。現状維持では済まないと見た方がいい。

安倍政権下の安保法制で集団的自衛権行使が可能になったが、日本の存立が脅かされ国民の権利が覆される明白な危険がなければ、米国の自衛戦争に加わって海外で武力行使をすることはできない。しかし、自衛隊明記が踏み台になり、これまでの解釈変更をもう一步進める足がかりにされる危険がある。

——9条が果たしてきた役割をどう考えますか。

米国では、憲法の歯止めがどうかかっているかを、裁判を通じて国民が実感できる。しかし、日本では最高裁の違憲審査があまり機能していない。それだけに9条は憲法による政治権力への制約力を国民が一番実感できる立憲主義の象徴のような存在になった。9条が機能したためにできなかったことも多々ある。その9条を今後どうするか、立憲主義的な歯止めは国民世論にかかっている。(聞き手・中村尚徳)

## 戦争をどう語る どう語り継ぐ 平和を訴える「ピースあいち」の悩み

朝日新聞デジタル編集委員・伊藤智章 2022年5月3日 8時00分



創立15周年行事の打ち合わせをするスタッフたち=名古屋市名東区のピースあいち



「なぜ戦争が起きるのか」。そう問われたらどう答えようか。亡父が兵士として体験した悲惨な沖縄戦について、修学旅行の事前学習などで語る愛知県稲沢市の元教員中村桂子さん(69)はこのところ悩む。

かつての戦争の話なら近代日本の歩みから解説することができた。でも今はウクライナを念頭に尋ねてくるだろう。一般論で答えていいのか。もっと踏み込むべきなのか。

中村さんがボランティアとして所属する戦争と平和の資料館「ピースあいち」(名古屋市名東区)の関係者の間でも同じ議論が起きた。「平和を目指す資料館として、強いメッセージを出すべきだ」というのだ。

でも3月中旬、ホームページのトップに、ウクライナ国旗の青と黄をつかって飛び立つハトの絵と、同館の創立協力者の女性の「永遠の平和を」という手書き文字を掲げるにとどめた。

同館は原爆や名古屋空襲の関連資料を多数展示する。宮原大輔館長(69)は「ここはじっくり資料をみて考えてもらう場所。広く市民に開放すべきで、こちらから強い発信をするべきじゃない」。企画展示も予定通り5月6日までは「戦時下の地震」、10日からは「沖縄戦と日本復帰50年」と変えない。

ただ、有力政治家の間で「核共有論」や「憲法改正」が語られる中、ボランティアの高齢化やコロナ禍で、活動が滞約されていることがもどかしいという。

疎開経験者で1990年代か…

残り 518 文字

## 日本の絵本をウクライナ語に翻訳 3日から動画配信開始 NHK2022年5月3日 5時49分



ロシアによるウクライナへの侵攻が続く中、平和の意味を問いかける日本の絵本作家の作品が、ウクライナの大学生などの協力でウクライナ語に翻訳され、その動画が3日から配信されます。ウクライナ語に翻訳されたのは絵本作家・浜田桂子さんの作品で、11年前に出版された「へいわって どんないいこと?」です。平和とは何かという疑問に「ぼくがうまれてよかったっていいこと」「きみとぼくはともだちになれるっていいこと」などと答える内容で、中国語やベトナム語にも翻訳されるなど、国境を越えて反響が広がっています。

滋賀大学の近兼敏客員教授の呼びかけで日本とウクライナの学生がおおよそ1か月かけて、絵本の翻訳と読み聞かせ動画の作成を行い、3日から動画投稿サイト「ユーチューブ」で配信されます。

今後、ロシア語での動画の配信も予定しているということです。浜田さんは「平和の嬉しさや喜びを表現した絵本なので、そうした思いがウクライナの子どもたちに届いてほしいと思います。平和はもろく、永久に続くものでも、向こうからやってくるものでもありません。現実も絵本のように『僕が生まれて良かった。君と僕は友達になれる』という世界であってほしいです」と話していました。

## ウクライナ危機で強まる「専守防衛」見直し論…自民党ハト派の重鎮が危機感

TBS テレビ 2022年5月3日(火) 17:37

5月3日は75年前に日本国憲法が施行された憲法記念日です。ロシアによるウクライナ侵攻などをうけ、今、憲法9条に基づく「専守防衛」の見直し論が強まっています。

日本の平和をどう守っていくのか。多くの人が不安を感じ始めています。

大学生(20代)

「めちゃくちゃ北朝鮮のこと気になります。日本なんかあったら怖くない?」

会社員(20代)

「ウクライナのこととか、自分の国に対する防衛が他人事ではない」

ミサイルの発射を繰り返す北朝鮮、軍力を強化する中国、ウクライナに侵攻したロシア……。

厳しい現実を前に自民党は先週、弾道ミサイルなどによる日本への攻撃に対応するため、日本が相手国の基地などへの反撃能力を

保有することを提言しました。さらに議論の過程では・・・

自民党 福田達夫総務会長

「専守防衛では限界があるのではという指摘が複数の方からございました」

長年、日本が守ってきた「専守防衛」を見直すべきとの意見が出たのです。そもそも「専守防衛」とは、戦力の不保持などをうたった憲法 9 条に基づくものです。日本からの先制攻撃は原則禁止。相手から武力攻撃を受けたときにはじめて防衛力を行使できます。しかも、自衛のための必要最小限に限られます。

しかし、これに総理経験者が疑問の声をあげました。

自民党 安倍晋三元総理

「そもそも相手は戦争ですから、殲滅しに来てるわけですよ。殲滅しようとしている国に対して、必要最小限度はどこかと考えながらやることはなかなか大変ですよ」

たとえば専守防衛を今のウクライナにあてはめれば、ロシアへの反撃を必要最小限に留めるということにもなりかねません。自衛隊の前のトップも「必要最小限」という縛りは「非現実的」だと訴えます。

自衛隊 河野克俊前統合幕僚長

「(自衛隊は) 災害派遣には全力であたってます。『いいかお前、必要最小限だぞ』なんて、そんなことやるわけじゃないんですよ。戦争は自然災害よりももっとひどい状況。国民の皆さんにとっては、いまだに自分たちの手足を縛って『必要最小限です。世界のみなさんご安心を』なんてことは次の世代に負わせてはいけません。ただ、勢いづく防衛力強化の議論に強い懸念を抱く人もいます。岸田総理に派閥の会長の座を譲った、自民党の古賀誠元幹事長です。

自民党 古賀 誠元幹事長

「感覚で戦争を実体験している人たちがいない今、とっても怖いということを僕は言ってる」

太平洋戦争で父親を亡くした古賀氏。「力で平和を実現する」という議論は、戦争を実体験していない世代が理屈で考えた議論だと訴えます。

自民党 古賀 誠元幹事長

「戦争だけはね、理屈で収まるんじゃないんです。どれだけのね、尊い命が失われたり、財産無くしたり、血を流したりと、そういう尊い犠牲の上にあるんです。だからこそ戦争というのは繰り返してはならないし、理屈で収められるような簡単なものではない」古賀氏は日本の周辺国が力を振りかざす今こそ、憲法 9 条の理想を追求すべきだと考えています。

自民党 古賀 誠元幹事長

「平和憲法があることは大きな力であるし、先人が残した決意と覚悟なんです。もっと言えば理想なんです。その理想を実現するために外交を使ったり、経済使ったり。だから理想であることは間違いないですよ、9条は。だけど政治ってそもそも理想を実現するためにあるんじゃない」

施行から 75 年。憲法は岐路に立っています。

神戸新聞 2022/5/3 05:30 神戸新聞 NEXT

大国の間に立つ日本、ウクライナ侵攻で問われる憲法 9 条の意義とは 戦争体験者らに聞く



憲法関連のニュースを伝える街頭ビジョン

ウクライナ問題が世論を揺さぶる＝2日午前、神戸市中央区雲井通7、ミント神戸（撮影・中西幸大）

ロシアによるウクライナ侵攻が続く中、日本国憲法が掲げる「平和主義」が改めて問われている。戦力の不保持、交戦権の否認を規定した憲法を「理念だけでは侵略国家から国民の命を守れない」とする意見が勢いづく一方、「今こそ理念を大切にすべき」との声も上がる。憲法は3日、施行から75年を迎える。さまざまな原体験を持つ人たちに聞いた。

■攻めてきたらどうしようもない

「理念だけでなく、現実的に考えるべきだ」。ウクライナ国民の受難に心を痛める兵庫県三木市のギャラリー館長、筒井俊雄さん(92)は訴える。

太平洋戦争中、学徒動員で明石の航空機工場に勤務。空襲を経験し、何度も死を覚悟した。戦争を仕掛けることはあつてはならないと思うが、国を守る具体的な手段は必要だと信じてきた。

「憲法にはそれが書かれていない」と筒井さん。「戦争をしないと張り張っても、相手が攻めてきたらどうしようもない」と話す。

■条文だけで国と命守れるか

北方領土の択捉島薬取(しべとろ)村で終戦を迎えた山本忠平さん(87)＝神戸市中央区＝も「紙に書いた条文が国を守ってくれるのか」との思いを強める。

島は旧ソ連に侵攻され、占領下で生活を送り、ついには故郷を追われた。「独立国である以上、いつ戦わないといけない状況になってもおかしくない。自分の家族を守れるような憲法にしないといけない」と主張する。

■自衛力必要だが理念も貫いて

内戦が続くシリアの出身で、2018年に日本国籍を取得した貿易会社経営ナーイフ兼寛さん(38)＝兵庫県明石市＝は「日本人は平和が当たり前だと思っている」と指摘する。

中国、台湾関係の緊張など周辺地域の情勢も、楽観視できない中、「自衛のための軍事力は必要」とし、外交で優位に立つためにも有事に対する備えの大切さを実感する。一方で、憲法の理念を否定しているわけではない。

「こういう世の中だからこそ、日本にとって最も大事なものは、平和主義を貫くことなんだろうと思う」

■被爆国として立ち返るべき

兵庫県被爆二世の会で会長を務める中村典子(みちこ)さん(73)＝神戸市垂水区＝は「日本はウクライナと置かれている立場が違う。不安に駆られた状態で憲法について判断すべきではない」と言い切る。

広島に住んでいた中村さんの父は、爆心地から1・7キロの地点で被爆した。戦後の広島で育った中村さんは憲法9条に「核の恐ろしさを目の当たりにし、過ちを二度と繰り返さないとの反省が込められている」との思いを持つ。

「第2次世界大戦の血と涙を犠牲にしてできた、世界に誇れる

憲法。ロシアのウクライナ侵攻を見ると、唯一の被爆国として平和憲法に立ち返るべきだと改めて思う」と意義を強調する。

(大橋凜太郎、綱嶋葉名)

【日本国憲法の平和主義】前文と第9条で表現され、前文で「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」と宣言。9条では「国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」と規定する。「陸海空軍その他の戦力」も保持しないと、交戦権も「これを認めない」とする。

しんぶん赤旗 2022年5月4日(水)

### 9条は「国民の希望」 憲法会議が「改憲阻止」声明

憲法改悪阻止各界連絡会議(憲法会議)は施行75年の憲法記念日の3日、改憲阻止、ロシアのウクライナ侵略停止・即時撤退、参院選勝利で改憲にとどめをと呼びかける声明を発表しました。

日本国民310万人、アジアの2000万人の命を奪った侵略戦争への「戦争はいやだ」という国民の思いを集めた憲法9条は「国民の希望であり、世界の宝」だと強調。自民党「憲法改正実現本部」の全国遊説、憲法審査会の開催、ウクライナ侵略に乗じた「核共有」論、「敵基地攻撃能力」保有や軍事費2倍化の自民党提言など、岸田政権による憲法の平和原則に逸脱し日本を戦争へ突き進ませる動きを批判しています。

「軍事対軍事では平和は生まれない」と述べ、憲法9条を持つ日本こそが東アジア地域での平和をつくる努力の先頭に立つべきだと指摘。復帰50年で基地のない平和な沖縄の実現、「憲法改悪を許さない全国署名」の推進、参院選で市民と野党の共闘を広げ改憲派を少数派に追い込むために全力を上げることを表明しています。

朝日新聞デジタル 2022.05.04

### 戦争と憲法 何を守るのか、それが問題だ 早稲田大学教授・長谷部恭男



ウクライナ軍とロシア軍が戦闘した通り＝8日、ウクライナ・キーウ近郊ブチャ、竹花徹朗撮影 Share

政治哲学者ジャン＝ジャック・ルソーは、その遺稿「戦争法原理」において、戦争において攻撃の対象となっているのは敵国の社会契約、つまり憲法原理だと言う(『人間不平等起源論 付「戦争法原理」』坂倉裕治訳)。憲法原理が根底的に異なるからこそ国家は対立する。共産主義国家はファシズム国家と、全体主義国家は立憲主義国家と対立する。第2次大戦でアメリカが日本に憲法原理の根底的な転換を求めたのも、それなくしては両国の間に安定した友好関係が成り立ち得ず、戦争が終結し得なかったからである。共産主義陣営と自由主義陣営が対立した冷戦も、共産主義陣営がリベラルな議会制民主主義国家になることで終結したは

ずであった。

しかしロシアは、今も議会制民主主義を受け入れていない。ミュール大学教授のティモシー・スナイダーが指摘するように(『自由なき世界』池田年徳訳)、プーチンが演説でたびたび引用する思想家イヴァン・イリインが唱えるのは、救世主により指導されるロシア民族が、民族の浄化と敵対者との戦闘を経て、最終的に無限の神との合一に至ると主張するあからさまなファシズムである。ヘーゲル思想を歪曲(わいきょく)したヘーゲル左派(マルクス主義)もヘーゲル右派(ファシズム)も、現状で受容されている法や道徳は、歴史をさらに高度な段階へと進展させる「革命」によって破壊されると説く。国際法も人道法も守るにはあたいせず、あからさまな嘘(うそ)をつくこともさしたることはない。

抗戦選択の意味

ウクライナのゼレンスキー大統領が英国議会での演説で、『ハムレット』の to be, or not to be を引用したことが伝えられている。日本では「生きるべきか、死ぬべきか」と訳されることが多いが、そもそもの文脈に即して言えば、「(運命に逆らって) 闘うべきか、それとも (運命に) 屈従すべきか」と訳すべき台詞(せりふ)である。ゼレンスキーは絶体絶命に見える運命に逆らっても、ウクライナの憲法原理を守るため徹底抗戦すると宣言した。

屈従することはロシアの属国になること、選挙はすべて見せかけで、政敵は暗殺されるか投獄され、選挙結果も誤魔化(ごまか)され、抗議デモの参加者は暴力的に抑圧され、独裁者がいすわり続けて彼とその取り巻きが国富の多くを猫ババする国になることを意味する。それとも、数年毎(ごと)の選挙で為政者を交代させ、公正な選挙で選ばれた議員による審議と決定で国政を運営するまっとうな、ヨーロッパ型の議会制民主主義国家になるかの選択である。命をかけても徹底抗戦するというゼレンスキーのことばが理解できない人は、この選択の意味が理解できない人である。

立憲主義をこそ

日本の安全保障と憲法についても考えるべきことは多い。何の安全であり、何の保障なのか。突き詰めて言えば、守るべきは現在の憲法原理である。日本のリベラルな議会制民主主義を断固として守るという気概が今の日本国民にあるか否かが問われている。だからと言って、どんな手段をとってもよいわけではない。あくまで憲法の定める枠内で冷静な議論を尽くし、理性的に判断することが求められる。その意味でも、集団的自衛権をめぐる安倍政権による理を尽くさない憲法解釈の変更は、憲法原理に対する自傷行為であり、日本の立憲主義を深く傷つけた。何をいかに守るべきかが改めて問われている。

憲法9条が必要最小限の自衛力の保持を禁じているわけではないことを分かりやすく説明するのが、木村草太著『自衛隊と憲法』(晶文社・1595円)である。＝朝日新聞 2022年4月30日掲載

こんな時こそ憲法に理解を〜♪ ギター手に前文歌う 83歳元教師 きょうユーチューブで配信

南日本新聞 2022/05/03 11:03



弾き語りをする川野恭司さん（右）と、ユー

チューブの出演を依頼した上野康弘さん＝鹿児島市名山町

平和主義の理念を再び歌で伝えたい。鹿児島市明和4丁目の元中学教師の川野恭司さん（83）は、かつて授業で披露していた憲法前文の弾き語りを、ロシアのウクライナ侵攻を機に再開した。憲法記念日の3日に合わせ、ギターに乗せて動画投稿サイトで配信する。「こんな時こそ、憲法に理解を深めてほしい」との願いを込める。

川野さんは同市の鹿児島大学付属中学校で社会科教師を27年間務めた。憲法の授業では、ギターを手に「全世界の国民が～平和のうちに生存する権利を有する～」と前文を歌ってきた。人が生きる上で大切な平和的生存権の考えに親しんでほしいとの思いからだ。

80歳を超えて再び取り組んだきっかけは、教え子で同市名山町の「学カフェ」副店長上野康弘さん（38）からの依頼だった。

上野さんはウクライナの惨状を見て「日本も武力が必要かも」「戦力不保持を守るのは大切」と気持ちが揺れていた。そんな時、中学時代に聞いた恩師の歌声が思い浮かんだ。戦争体験者の川野さんに、自身が管理するユーチューブチャンネル「学カフェ」への出演を打診。快諾を得た。

川野さんは幼少期、地元の宮崎県で戦争を経験。逃げまどい、燃える自宅を防空壕（ごう）の中から見た。ラジオで知った終戦の喜びは忘れられない。その後、暮らしは貧しくても、開放感があった。平和主義を掲げる憲法に世の中は歓迎ムード。父母も喜んでいた。

教師になり、平和について教える際、戦争の悲惨さだけを伝えるでは効果が薄いと考えていた。そこで平和的生存権にもつながる日々の風景や、人を大切にする優しさに気付かせることに力を入れた。いじめなどの人権問題を考えさせる場面でも、前文を歌ってきた。

4月26日、同カフェ店内で動画の収録があり、川野さんが演奏するクラシックギターの音色と、柔らかく落ち着いた声の憲法前文が響いた。川野さんは「まずは憲法を知ってほしい。知らずして憲法に賛成、反対は言えない。立場を超えて、それぞれに受け止めてもらえたらいい」と話した。



### 芦部憲法学を学ぶ会が発足 「憲法のまち」への第一歩 駒ヶ根 信濃毎日新聞 2022/05/03 09:04

戦後日本を代表する憲法学者、芦部信喜(のぶよし)氏（1923～99年）の出身地、駒ヶ根市で「芦部憲法学を学ぶ会（憲法カフェ）」＝仮称＝が発足した。芦部氏を巡っては来年、生誕1

00年を迎えることから市も記念事業を検討している。「学ぶ会」の世話人たちは「住民側から盛り上げて、『憲法のまち』駒ヶ根への第一歩としたい」と張り切っている。

「学ぶ会」は、4月2日に元文部科学事務次官の前川喜平氏と信濃毎日新聞編集委員との「平和への憲法学対談」（参加約400人）を市内で開いた実行委員会のメンバーらが、活動を発展させようと計画。同月中旬に9人で準備会を立ち上げた。

「対談」に参加が少なかった若者や憲法になじみの薄い人たちにも憲法を身近に感じてもらうのが狙い。2カ月に1回程度、講師を招いての学習会や人権や生存権をテーマにした映画上映会などを開き、年に1回は大規模なイベントを開催することを考えている。今後、具体的内容を詰める。

第1弾として5月下旬、前市教育長の小木曾伸一さんが、芦部信喜を生んだ駒ヶ根の歴史と風土について話す予定だ。

世話人の1人で弁護士及川裕貴(ゆうき)さん（33）は「地域の人たちとの交流を通して、憲法が一人一人に関わっていることを考える機会にしたい。小さな積み重ねを続け将来、駒ヶ根が『憲法のまち』になっていければいい」と話している。

### 緊急事態条項の創設是非で論争激化 人権制限につながる恐れも 衆参憲法審

東京新聞 2022年5月3日 06時00分

ロシアのウクライナ侵攻を受けて、自民党など改憲派は憲法に「緊急事態条項」を創設する必要性をこれまで以上に強調している。衆参の憲法審査会で意見を集約したい考えだが、野党第1党の立憲民主党は現行憲法で対応できるとして反対。緊急事態での国会議員の任期延長や緊急政令の是非など、多岐にわたる議論が続いている。（佐藤裕介）



「緊急事態に関する憲法審としての考え方をとりまとめていきたい」。4月7日の衆院憲法審後、与党筆頭幹事を務める自民の新藤義孝氏は突然、記者団にこう語った。

自民はウクライナ侵攻を機に、衆院憲法審で緊急事態条項創設の必要性に加え、議論の加速化も強調し始めた。党の改憲4項目の条文イメージに盛り込んだ大規模な自然災害時に加え「有事やテロ、感染症も対象にすべきだ」との声も上がる。ただ、緊急事態の定義は定かではない。

論点の1つは、緊急事態が発生した時に、国会議員の任期を延長するかどうかだ。憲法は国会議員の任期を定めている。選挙ができないほどの大規模災害などが発生して任期満了になると、国会議員が不在になりかねない。自民は国会の機能を維持するため、任期延長の規定を書き込むよう主張。公明党に加え、野党の日本

維新の会、国民民主党も前向きな考えだ。

これに対し、立民は任期満了時に衆参の選挙ができなくても、3年ごとに半数改選される参院では半分の議員が残り、憲法に定められている参院の緊急集会などで対応可能だと主張。改憲は不要だとしている。

◆政府の権限集中 自民「盛り込むべき」 立民「立憲主義に反する」

さらに対立が深まるのは、政府の権限集中と私権制限を認めるかどうかだ。自民党はいずれも憲法に盛り込み、内閣が緊急時に国会の関与なく法律に相当する「緊急政令」も制定できるようにすべきだと主張している。

一方、衆院憲法審で立民の奥野総一郎氏は、ナチスドイツのヒトラーが緊急事態条項を乱用して独裁政権を樹立した経緯に言及し、「強権的な緊急事態条項は立憲主義に反する」と指摘。緊急政令は人権の制限にもつながりかねず「憲法の改正限界を超える」と批判した。

自民は維新、国民民主の協力を得て合意を急ぎたい考え。ただ、憲法担当相として1947年の施行まで憲法制定に深く関わった金森徳次郎氏は「緊急勅令は国民意思を無視できる制度といえる」として、緊急事態条項を盛り込まなかった理由を説明した。立民は「改憲ありきの憲法審の運営に異を唱えていきたい」（小西洋之参院議員）と反対している。